

工学部

Faculty of Engineering

履修要項

2024

(4月入学生)

2024年度 学 年 暦

春学期

秋学期

	春学期									年間行事等	秋学期									年間行事等				
	日	月	火	水	木	金	土	日	月		火	水	木	金	土									
3月	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	3/8 進級判定	1	2	3	4	5	6	7	9/4 午前卒業式(春学期) 9/4 午後入学式(秋学期)	
	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	3/20 (春分の日)	8	9	10	11	12	13	14	9/9~9/19 秋学期オリエンテーション 9/16 (敬老の日)	
	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	3/21 卒業式(秋学期) 3/26~4/4	15	16	17	18	19	20	21	9/20 秋学期授業開始 9/22 (秋分の日)	
	24	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	2024年度春学期オリエンテーション 3/28 新入生登校日	22	23	24	25	26	27	28	9/23 (秋分の日 振替休日) 授業日 9月龍頭祭(予定)	
4月	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	4/30, 5/1, 5/2 休講	29	30	31	1	2	3	4	5	
	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	4/3 入学式(春学期) 4/5 春学期授業開始	6	7	8	9	10	11	12		
	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27		13	14	15	16	17	18	19	10/14(スポーツの日) 授業日	
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4		20	21	22	23	24	25	26	10/26, 10/27 龍尾祭(予定)	
5月	28	29	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	4/29 (昭和の日) 4/30, 5/1, 5/2 休講	27	28	29	30	31	1	2		
	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	5/3 (憲法記念日) 5/4 (みどりの日) 5/5 (こどもの日)	3	4	5	6	7	8	9	11/3(文化の日) 11/4(文化の日 振替休日) 授業日	
	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	5/6 (こどもの日 振替休日) 授業日	10	11	12	13	14	15	16		
	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	1		17	18	19	20	21	22	23	11/23 (勤労感謝の日)	
6月	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		24	25	26	27	28	29	30		
	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		1	2	3	4	5	6	7		
	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29		8	9	10	11	12	13	14		
	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6		15	16	17	18	19	20	21		
7月	30	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	7/15 (海の日) 授業日 7/25 春学期授業終了 7/26, 7/27 補講日	22	23	24	25	26	27	28		
	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20		29	30	31	1	2	3	4	1/1 (元日)	
	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27		5	6	7	8	9	10	11	1/13 (成人の日)	
	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4		12	13	14	15	16	17	18	1/17 秋学期授業終了 1/20, 1/21 補講日 1/22~1/28 秋学期定期試験	
8月	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	7/29~8/2 春学期定期試験 8/5~8/7 追試験 (8/8 追試験予備日)	26	27	28	29	30	31	1	1/30~2/3追試験 (2/4 追試験予備日)	
	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	8/11(山の日) 8/12(山の日 振替休日)	2	3	4	5	6	7	8		
	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	8/19~8/21 再試験 (8/22 再試験予備日)	9	10	11	12	13	14	15	2/11 (建国記念の日) 2/12~2/14 再試験 (2/17 再試験予備日)	
	25	26	27	28	29	30	31	1	2	3	4	5	6	7	8/28 卒業/進級判定	16	17	18	19	20	21	22	2/23 (天皇誕生日) 2/24 (天皇誕生日 振替休日) 2/28 卒業判定 3/7 進級判定	
9月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15		23	24	25	26	27	28	29	3/20 (春分の日) 3/21 卒業式(秋学期) 3/25~3/31 2025年度春学期オリエンテーション
	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22		16	17	18	19	20	21	22	
	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29		23	24	25	26	27	28	29	
	22	23	24	25	26	27	28	29	30	1	2	3	4	5	6		2	3	4	5	6	7	8	

- | | |
|---|---|
| <ul style="list-style-type: none"> ①~⑮ 授業日 オリエンテーション 定期試験 再試験・追試験 休講 | <ul style="list-style-type: none"> 式典 学園祭 卒業判定・進級判定 土・日・祝日 夏休み・冬休み・春休み期間 |
|---|---|

※休み期間中に講義を行う場合があります。

履修要項

2024

(4月入学生)

京都先端科学大学
工学部

機械電気システム工学科

Department of Mechanical and Electrical Systems Engineering

京都先端科学大学 建学の精神と3つのポリシー

<建学の精神>

本学では、未来につながる課題を自ら設定し、それを解決することができる先端人材を輩出します。

本学では、これからの社会が目指すべき姿を構想し、その実現に向けた諸課題の解決に繋がる先端学術研究を実践します。

本学は、人材輩出・研究の実践を通じ、現在と未来の世界に先頭を切って貢献していきます。

<建学の精神の実践>

未来社会を支える人材は、多様な価値観の存在する世界で活躍します。

本学は、未来社会の姿を見通し、起こり得る新たな課題を洞観し、現在の諸課題と併せて世界に率先して解決する教育・研究活動を実践します。

世界で通用する先進性・多様性・倫理観と、専門的知識・創造的思考力・洞察力・俯瞰力・幅広い教養を兼ね備えて、複雑で複合的な問題に挑戦できる人材を育てます。

<学位授与の方針> (ディプロマ・ポリシー)

1. 知識・理解

1.1 核となる特定の知識体系を他領域の知識と関連づけながら修得し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。

2. 技能

2.1 適切な方法を用いて必要な情報を収集し、活用できる。

2.2 多様な言語を用いて、他者と意思疎通を行うことができる。

3. 思考・判断・表現

3.1 修得した知識、技能ならびに経験を活かして、複眼的思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現できる。

3.2 自ら設定した主題について、収集した資料を客観的に分析しながら、批判的に考察できる。

4. 関心・意欲・態度

4.1 変容するグローバル社会の諸問題に継続的に関心を示し、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。

4.2 多様な他者と協働しながら、自律的な社会人として行動できる。

<教育課程編成・実施の方針> (カリキュラム・ポリシー)

1. 教育課程編成

1.1 教育課程として、大学共通コア科目および各学部学科専門科目を配置します。

1.2 大学共通コア科目では、汎用的能力の中核的な力として、未来展望力・教養、基礎学力・技能、語学力・異文化理解、およびコミュニケーション力・リーダーシップ・協調性を修得することを目的とし、修得に必要なリベラル・アーツ科目を配置します。

1.3 専門科目は、各々の学部学科の学修を活かした進路に則して配置され、専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力を育成します。

2. 学修方法・学修過程

2.1 (学修方法) 4年間の教育課程では、教養科目や専門科目を理論的に学修するだけでなく、体験学修およびキャリア学修も連動させながら実践的かつ能動的に学修します。

2.2.1 (学修過程) 大学共通コア科目では、汎用的能力の修得に必要なリベラル・アーツ科目を段階的に学修します(健康医療学部の看護学科・言語聴覚学科は独自のカリキュラムを実施します)。

- 2.2.2 1 年次には、スタートアップ科目で、基礎的な課題発見力・解決力およびコミュニケーション力を育む学修を行います。
- 2.2.3 1 年次および 2 年次には、基礎的な日本語能力・数的処理能力・IT 技能の修得を目指した学修を行い、また、身体活動を通じてコミュニケーション力・リーダーシップ・協調性を育む学修を行います。
- 2.2.4 1 年次から 3 年次には、社会人として有用な英語力の修得を目指して、一貫したカリキュラムで英語を学修します。
- 2.2.5 2 年次からは、教養および課題発見力・解決力を育む未来展望科目で現代社会の諸問題を学際的に学修します。
- 2.3 (学修過程) 専門科目では、専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力の修得を目的として、各学部学科で設置されるコース・プログラムの下で段階的に学修しながら卒業論文を作成します。

3. 学修成果の評価

- 3.1 学修成果は、ディプロマ・ポリシーで定められた能力と、カリキュラムの各科目で設定される到達目標の達成度を示すものであり、アセスメント・ポリシーに従って多様な方法で学修成果を評価します。
- 3.2 各科目の内容、到達目標、および評価方法・基準をシラバスに示し、到達目標の達成度を評価します。

<入学者受け入れの方針> (アドミッション・ポリシー)

本学は、建学の精神において、「未来につながる課題を自ら設定し、それを解決することができる先端人材」の育成を教育の目的としています。そのために、志望学部・学科の教育内容を理解した上で、学問の探究と実践、並びに技能の向上を目指し、グローバル社会に必要な市民教養を身につける意欲を持つ人を求めます。

1. 知識・技能

- ・高等学校等において履修する科目についての基礎的な知識や技能を持つ。

2. 思考力・判断力・表現力

- ・科学、文化、社会、自然、健康などの事象に関わる学問領域について考え判断する能力があり、自分の考えを表現できる。

3. 主体性を持って多様な人々と協働して学ぶ態度

- ・学問や技能に対する強い興味・関心があり、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。
- ・知識や技能の修得のために、多様な人々と協働して取り組める。
- ・国際人としての教養を身につけ、英語を中心とした語学力の向上を目指す意欲を持つ。

<学修成果評価の方針> (アセスメント・ポリシー)

1. 目的

本学のディプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP)、及びアドミッション・ポリシー (AP) の達成状況を検証する方法を定めることにより、学生の学修成果を評価し、教育の改善を持続的に行う。

2. 機関レベル (大学全体)

学生の志望進路に対する就職率、資格・免許取得率、学生満足度調査などから、学修成果の達成状況を検証する。

3. 教育課程レベル (学部・学科)

卒業論文、単位取得状況、GPA、資格の取得状況などから、教育課程レベルでの学修成果の達成状況を検証する。

4. 科目レベル (授業)

シラバスで明示した成績評価基準に基づく評価、授業評価アンケートなどから、科目レベルでの学修成果の達成状況を検証する。

5. 検証方法

具体的な検証方法は次のとおりとする。

	入学前・入学時 (AP 達成状況の検証)	在学中 (CP 達成状況の検証)	卒業時 (DP 達成状況の検証)
機関 (大学全体)	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験 入学前教育 	<ul style="list-style-type: none"> 外部テスト 学生満足度調査 ポートフォリオ (マイステップ) 課外活動の状況 休学率 退学率 	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与数 就職率 資格・免許取得率
教育課程 (経済経営学部)	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験 入学前教育 	<ul style="list-style-type: none"> 修得単位数 GPA 外部テスト アンケート インターンシップ成果報告会 学外での研究発表会 ビジネス・プランニング・コンテスト 成果物の展示 学生論集への掲載 休学率 退学率 	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与数 卒業論文 就職率 資格取得者数
教育課程 (人文学部)	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験 入学前教育 	<ul style="list-style-type: none"> 修得単位数 GPA 外部テスト アンケート 学生満足度調査 実践成果報告会 卒業論文中間報告会 休学率 退学率 	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与数 卒業論文 就職・進学率 資格・免許取得率 卒業アンケート
教育課程 (健康医療学部)	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験 入学前教育 	<ul style="list-style-type: none"> 修得単位数 GPA 外部テスト 実習評価アンケート 企業アンケート ポートフォリオ (マイステップ) 休学率 退学率 	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与数 卒業論文 就職率 資格・免許取得率 国家試験合格率 卒業アンケート
教育課程 (バイオ環境学部)	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験 入学前教育 	<ul style="list-style-type: none"> 修得単位数 GPA 実習評価アンケート 企業アンケート 学生満足度調査 課外活動状況 休学率 退学率 	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与数 卒業論文 就職率 資格取得率 卒業アンケート
教育課程 (工学部)	<ul style="list-style-type: none"> 入学試験 入学前教育 留学生比率 	<ul style="list-style-type: none"> 修得単位数 GPA 外部テスト 企業アンケート 学生満足度調査 フレックサストーンプロジェクト報告書 学外コンテスト ポートフォリオ (マイステップ) 休学率 退学率 	<ul style="list-style-type: none"> 学位授与数 キャップストーンプロジェクト報告書 もしくは研究室プロジェクト報告書 就職率 大学院進学率 卒業アンケート
科目	<ul style="list-style-type: none"> 入学前教育 英語フレーズメントテスト 	<ul style="list-style-type: none"> 成績評価 成果報告会 外部テスト 授業評価アンケート 企業アンケート 	

履修要項とは

入学から卒業までの間に、学則および履修要項に定められた科目を学修し、所定の単位を修得しなければなりません。この『履修要項』には、学修の計画をたてるために必要な情報をすべて掲載しています。熟読して、卒業までの学修計画をしっかりとたてましょう。この冊子は、入学時のみ配布しますので、紛失等のないよう留意してください。

京都先端科学大学 工学部 履修要項目次

京都先端科学大学 建学の精神と3つのポリシー	2	カリキュラムマップ	4 1
覚えてほしい大切なこと		第2章 大学共通	
アドバイザー制度	6	インターンシップ（企業実習）プログラム	4 3
教員との連絡	6	大学コンソーシアム京都 単位互換制度	4 4
「先端なび」～学生個人向け専用サイト～	6	放送大学 単位互換制度	4 5
大学からの連絡	6	国内留学（札幌学院大学・沖縄国際大学）	4 6
授業を欠席する場合の注意	6	海外留学・海外研修	4 7
やむを得ない欠席となる事由	7	キャリア・就職支援体制	4 9
SLS（スポーツ・ライフスキル）の受講について	8		
教務センター	8		
第1部 履修の心得		学則、学費規程、学位規程、学生の懲戒に関する規程は、「先端なび」で確認してください。	
I. 履修をはじめるとにあたって	10		
II. 授業科目の開設について	11		
III. 履修登録	13		
IV. 出席管理システムについて	15		
V. 試験	16		
VI. 成績・GPA	20		
VII. 単位授与及び認定	21		
VIII. 進級要件	22		
IX. 学修者本位の学び	24		
X. 卒業と学位	25		
XI. 学籍	27		
第2部 教育課程			
工学部 教育目的と3つのポリシー	31		
第1章 機械電気システム工学科			
カリキュラム	33		
授業科目一覧	38		

覚えてほしい大切なこと

アドバイザー制度

学生のみなさん一人ひとりに対して、専任の担任・副担任がアドバイザーとして指導を行います。担任・副担任は、みなさんの様々な相談に応じ、学修・生活上の問題解決のための助言を行います。

教員との連絡

本学では、学生が教員に相談できる時間としてオフィス・アワーを設けています。教員との連絡・相談は、授業前後やオフィス・アワーの時間を利用して行ってください。オフィス・アワーは、「先端なび」で確認できます。この他にも、教員が研究室に在室している時間は相談を受け付けます。

「先端なび」～学生個人向け専用サイト～

「先端なび」は、パソコンを使用して、以下に記載されているような様々な学生生活に関わる情報を提供します。



スマートフォンで確認する場合は、右のQRコードからご利用ください。

- ◇諸連絡 ◇各種案内 ◇休講・補講情報 ◇呼び出し情報 ◇学修ポートフォリオ
 - ◇履修登録・シラバスの参照 ◇各人の授業時間割の参照 ◇出欠状況
 - ◇課題（レポート等）の確認・提出 ◇住所等届出事項の変更 ◇面談予約 ◇就職関係 など
- ※「先端なび」の「メール設定」画面にて自分のメールアドレスを登録しておくこと、掲示された情報がメールに配信（転送）されます。

大学からの連絡

大学から学生のみなさんへの連絡は、原則「先端なび」を通じて行います。毎日必ず「先端なび」を確認してください。「先端なび」に掲載したものは、学生に周知されたものとして取り扱います。

授業を欠席する場合の注意

1. 授業出席要件（一部必修科目除く）

履修科目の単位を修得するには、授業に出席して学修を行うことが大前提となります。本学で開講されるすべての科目について、授業回数の3分の1を超えて欠席した場合（15回ある授業の内、6回以上欠席した場合）は、その科目の単位は授与されません。なお、1回の遅刻（授業開始後5分から20分の間）は、それ自体では欠席とはなりません。遅刻をどのように扱うかについては、科目担当教員が判断します。

2. 「やむを得ない欠席となる事由」で授業を欠席した場合

本学が指定する「やむを得ない欠席となる事由」（次頁表参照）で欠席する場合、欠席2/15回分まではその授業で実施された小テスト等についての代替課題（代替課題は提出しても出席にはなりません、一部評価を回復できる機会が与えられます）を科目担当教員に請求できます。代替課題の請求には、原則として欠席した日を除き1週間以内に科目担当教員に証明書（次頁表参照）を添えて申請書を提出する必要があります。なお、単位を修得するには、「やむを得ない欠席となる事由」での欠席も含めて、授業回数の3分の2以上の出席が最低限必要です。

3. 必修科目の授業出席要件

一部の科目については、厳しい出席要件を課しています。以下に示す必修および自動登録される英語科目では、15回ある授業のうち、2回以上（30回ある授業の場合は、3回以上）欠席した場合は、その科目の単位は授与されません。

また、スタートアップゼミA・BとSLS（スポーツ・ライフスキル）については、授業回数の5分の1を超えて欠席した場合（15回ある授業の内、4回以上欠席した場合）、その科目の単位は授与されません。

2/15 回以上あるいは 3/30 回以上の欠席で 単位授与とされない科目	4/15 回以上の欠席で単位授与とされない科目
英語文法Ⅰ・Ⅱ	スタートアップゼミ A・B
工学英語Ⅰ・Ⅱ	SLS(スポーツ・ライフスキル)Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ
アクティブ・リーディング	
アクティブ・リスニング	
英会話Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ	
アカデミックライティングⅠ・Ⅱ	
プレゼンテーション	
ディスカッション	

4. 必修科目の授業を「やむを得ない欠席となる事由」で欠席した場合

本学が指定する「やむを得ない欠席となる事由」(下記表参照)で欠席する場合は、授業回数の15分の2(15回ある授業の場合、2回の欠席)回分まではその授業で実施された小テスト等についての代替課題を請求でき、課題等を提出すれば出席とみなされます。代替課題の請求には、原則として欠席した日を除き1週間以内に科目担当教員に証明書(下記表参照)を添えて申請書を提出する必要があります。

◇授業を欠席する場合の留意点

- ① 本学に「公欠」はありません。
- ② 教務センターから科目担当教員への取り次ぎは行いません。また、期日を過ぎた申請書は受理しません。
- ③ 障害を持つ学生に対して、合理的配慮に基づいて学修支援を行う場合は、個別の対応を行います。
- ④ 看護学科、言語聴覚学科で独自に開講される科目については、代替課題等の申請制度が適用されない場合があります。
- ⑤ 長期入院等で、上記の授業出席要件が満たせない場合、指導担当教員から特例の申請を行うことが必要です。
- ⑥ 下記の表に記載されている「やむを得ない欠席となる事由」以外でも、本学が別途指定した「やむを得ない欠席となる事由」で欠席する場合は、当該事由のガイドラインに沿って対応します(法令で定める「新型コロナウイルス感染症」に感染した場合など)。

やむを得ない欠席となる事由

	事由	証明書	備考
1	学校保健安全法施行規則18条で定める感染症に罹患し、大学が出席停止を求めた場合	医師の診断書	加療期間が明記されている等、当日欠席が必要であることが分かる診断書 例：インフルエンザの場合、出席には発症から5日、解熱から2日経過していることが必要
2	公共交通機関の連休・遅延	連休・遅延証明書	WEBからダウンロードした遅延証明書を提出する場合、各公共交通機関HPに掲載されているリアルタイムの交通状況の画面(スクリーンショットしたもの)も提出が必要
3	3親等以内の慶事・忌引き	案内状、招待状、会葬礼状、葬儀証明書など	
4	自己の責めに帰さない不慮の事故または災害	事故証明書など	診断書の提出を求める場合もある。車、バイク、自転車での通学途上での交通事故・故障・交通渋滞による遅延は含まない。

5	課外活動	公式大会要項など	体育連合協議会、文化連合協議会所属団体の内、部として認められている団体に限る。参加者名簿を添付すること。
6	教員免許取得にかかる教育実習・介護等体験および博物館実習	教務センターの証明書	
7	資格試験・就職試験	受験証明書など	
8	単位互換科目（大学コンソーシアム京都・放送大学）の授業・試験と重複する場合	受講・受験証明書	
9	1以外の病気・怪我で医師が加療を指示した場合	医師の診断書	加療期間が明記されている等、当日欠席が必要であることが分かる診断書
10	その他大学が正当と認めた事由	大学が指示する証明書	補講との重複など

SLS（スポーツ・ライフスキル）の受講について

SLSについては、京都亀岡キャンパスで受講します（看護学科・言語聴覚学科除く）。授業時間に合わせてSLS専用の無料キャンパス間バスを利用してください。

※このバスは受講人数に合わせて運行しています。乗車マナーを守り、後部座席から着席してください。

教務センター

履修登録を始め授業に関して分からない事があれば、教務センターへ問い合わせてください。

《京都太秦キャンパス窓口取扱時間》

月～金 8:30～17:00

《京都亀岡キャンパス窓口取扱時間》

月～金 8:30～17:00

※土日祝日、その他大学が定める休業日を除きます。

第1部 履修の心得

I. 履修をはじめるとにあって

大学は、「学生が自主的に学ぶところ」です。つまり、大学は一方的に教えられる場所ではなく、自ら考え、自らの意見を形成していく場所です。

4年間を通じての学修プランを立て、卒業時には「この点については特に学修した」と言えるようになることが必要です。学修は、自分のためにするものです。また、文章を書く力、議論をする力、深く考え学修する力、新しい発想を創造する力等々は、社会に出て非常に大切な力であり、大学の授業を通じてこれらの力を向上させる努力が大切です。

1. 単位制について

(1) 単位制

大学は、単位制をとっています。単位制とは、所定の授業科目を一定の基準に従い履修し、その科目ごとに定められた単位を修得する制度です。

(2) 単位

単位とは、学修に要する時間を表す基準です。単位の修得はそれぞれの科目について所定の時間を履修し、試験その他大学が定める適切な方法により合格と判定され初めて単位を修得できます。この単位の集積をもって卒業に必要な単位数を満たしていくことになります。

おおむね 15 時間から 45 時間までの範囲で、大学が定める時間の授業をもって 1 単位として単位数を計算するものとしています。

- ① 講義・演習科目は、15～30 時間の授業時間をもって 1 単位とします。

(例) 講義科目の単位算出

90 分の授業は、2 時間とみなして計算しますので、2 時間×15 回=30 時間の授業時間数となります。

15 時間の授業時間をもって 1 単位とみなす科目では、30 時間で「2 単位」になります。

- ② 実験、実習、実技科目は、30～45 時間の実験、実習又は実技をもって 1 単位とします。

- ③ 自主的学習時間と単位の関係

1 単位の内容は 45 時間の学修を基準としています。

30 時間の授業をもって 1 単位とする場合には、1 単位について 15 時間の自主的学習が必要です。

15 時間の授業をもって 1 単位とする場合には、1 単位について 30 時間の自主的学習が必要です。

(例①) 2 単位 15 回授業の場合



(例②) 1 単位 15 回授業の場合



(3) 卒業の認定

学則で規定されている卒業に必要な単位（要卒単位）を修得し、かつ所定在学年数以上在学した場合に卒業となります（p.25「X. 卒業と学位」を参照）。なお、授業科目には卒業に必要な単位として算入される科目と、卒業に必要な単位として算入されない科目（資格課程等の取得を目的として修得する科目など）があります。

Ⅱ. 授業科目の開設について

1. 受講時のマナー

大学の授業において守るべき最低限のマナーには次のようなものがあります。みなさん自身でより良い受講環境をつくりましょう。

- ・私語をしない。
- ・携帯電話・スマートフォン・音楽プレーヤー等は、指示がない限り使用しない。
- ・途中入退室をしない（手洗いにいく場合や体調不良・通院などの理由で途中入退室が必要な場合は科目担当教員に申し出ること）。
- ・原則、飲食をしない。
- ・教室内では帽子を取る（事情があって帽子着用の必要な学生は、事前に科目担当教員に申し出ること）。
- ・学生証の貸し借りをしない（発見した場合は、本学の「学生の懲戒に関する規程」に基づき対処します）。

マナーを守らない学生には、科目担当教員がその都度注意しますが、改善が見られない場合には、退室を命じる、単位を授与しないなど、厳しく対処します。

2. セメスター制

セメスター制とは、1つの授業を1年間通じて実施する通年制における春学期・秋学期の区分とは異なり、1つの授業を学期（セメスター）ごとに完結させる制度です。入学時期ごとの年次・学期（セメスター）の関係は、次の通りです。

（春学期入学の場合）

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期
セメスター	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター

（秋学期入学の場合）

年次	1年次		2年次		3年次		4年次	
学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期	秋学期	春学期
セメスター	1セメスター	2セメスター	3セメスター	4セメスター	5セメスター	6セメスター	7セメスター	8セメスター

3. 授業時間帯

京都太秦キャンパス

1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時
8:50~10:20	10:30~12:00	12:40~14:10	14:20~15:50	16:00~17:30

京都亀岡キャンパス

1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時
9:30~11:00	11:10~12:40	13:20~14:50	15:00~16:30	16:40~18:10

4. 試験時間帯

京都太秦キャンパス

1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時
8:50~9:50	10:30~11:30	12:40~13:40	14:20~15:20	16:00~17:00

京都亀岡キャンパス

1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時
9:30~10:30	11:10~12:10	13:20~14:20	15:00~16:00	16:40~17:40

※一部の学部において、試験時間 90 分の科目があります。対象科目は定期試験時間割で確認してください。

5. 休講

(1) 授業は、休講することがあります。休講連絡は「先端ナビ」で行います。

(2) 休講の掲示がなく、授業開始後 30 分以上経過しても科目担当教員が入室しない場合は、教務センターに問い合わせて指示を受けてください。

6. 気象警報発令、あるいは交通機関に遅延等があった場合の授業および試験の取り扱い

(1) 気象警報が発令された場合

京都府南部京都・亀岡（京都市、亀岡市、向日市、長岡京市、大山崎町のいずれか）に「特別警報」「暴風警報」「暴風雪警報」のいずれかが発令された場合は、本学が開講する授業および定期試験の対応は、以下のとおりとなります（両キャンパス対象）。

警報解除時刻	授業および試験開始講時
7時までで解除	1 講時から実施
10 時までで解除	3 講時から実施
10 時を過ぎて解除	全講時休講

(注) 「大雨警報」「洪水警報」「大雪警報」は、原則として、休講の対象にはなりません。

ただし、特例的に大学が休講にする場合があります。その場合は、本学 HP および「先端なび」に掲示を行います。

※ 授業開始後に対象警報が発令された場合は、原則として、以降の授業は休講となります。

「特別警報」が発表されたら、ただちに命を守る行動をとってください。当該事由により授業または試験に出席できなかった場合は、下記の「(2) 公共交通機関が遅延した場合」に準じて対応してください。

(2) 公共交通機関が遅延した場合

当該事由により授業または試験に出席できなかった場合は、下記の対応をとってください。

- ① 授業（授業内試験を含む）に出席できなかった場合
当日中に科目担当教員に申し出て、指示に従うこと。
- ② 期末定期試験に出席できなかった場合
追試験の対象となります。
詳細は p.18 「2. 追試験」参照のこと。

7. 開講キャンパス

本学で開講されている科目は、京都太秦キャンパス・京都亀岡キャンパスのどちらかで開講されています。キャンパス間の移動は、無料キャンパス間バス、もしくは公共交通機関を利用してください。キャンパス間移動をする際は、移動時間を十分考慮しましょう。

Ⅲ. 履修登録

1. 履修登録

履修登録は、セメスターごとに実施しており、セメスターごとの履修登録が必要です。正しく履修登録していない科目は、授業に出席したとしても、単位を修得することができません。

履修登録完了後、「先端ナビ」で正しく登録されているか確認してください。

2. 履修登録に関する注意事項

履修登録を行う際には、以下の点に注意をしてください。

履修登録は、すべて自己責任において行ってください。

- 必修科目を修得していない場合は、必修科目を他の科目より優先して登録してください。
- 科目ごとの履修要件を守ってください。
- 同一講義時間に、2科目以上を登録することはできません。
- 履修登録期間終了後は、登録した科目を追加・変更することはできません。
- 単位を修得した科目を再度履修することはできません。
- 履修登録制限単位数を超えて履修登録はできません。

3. 履修登録制限（CAP 制）

学修の質および学修時間の確保のため、1セメスター（または年間）で履修できる科目の上限単位数を設けています。各学科で定められた制限単位数を超過して履修登録することはできません。

※ただし「インターンシップ実習」「海外研修」「サービス・ラーニング」の単位は、履修登録制限を超えて修得出来ます。

4. 履修登録の形態

(1) 必修科目

受講があらかじめ決められていて、単位を修得しなければならない科目。

必修科目の単位が修得できなかった場合、当該科目を翌セメスター以降に再履修しなければなりません。

(2) 自動登録科目

受講があらかじめ決められている科目。

(3) 事前登録科目

受講生数に定員のある科目。定員以上の受講希望者があった場合、選抜条件にしたがって受講者を決定します。事前登録の手続きを経て受講が許可されれば、必ず受講しなければなりません。（受講辞退不可）

(4) 選択科目

自分で登録する科目。各学部（各学科）のオリエンテーションで確認してください。

登録作業	科目区分	内容
教務センター	必修科目	受講があらかじめ決められており、卒業要件として必ず単位を修得しなければならない科目。単位が修得できなかった場合、当該科目を翌セメスター以降に再履修しなければなりません。
	自動登録科目	学部・学科毎に受講があらかじめ決められている科目。
学生	事前登録科目	受講生数に定員を設けている科目。定員以上の受講希望がある場合、選抜条件にしたがって受講者を決定。受講許可後の受講辞退はできません。
	選択科目	自分で選択・登録する科目。

5. 履修登録科目の取り消し

選択科目に限って、各学期の第3週目まで（学年暦①～③の期間）履修登録を取り消すことができます。

なお、履修登録を取り消した代わりに別の科目を登録することはできません。卒業に必要な単位数等を充分考慮し、履修の取り消しを行ってください。

履修登録取り消しの手続きは、教務センターにて「履修取消願」を期間内に提出してください。

6. 科目ナンバリング

「科目ナンバー」は、「第2部」各学科の授業科目一覧に掲載しています。履修科目を選択する際に活用してください。

(1) 科目ナンバリングとは

科目ナンバリングとは、授業科目に適切な番号を附番し分類することで、学修の段階や順序、授業科目の関係性等を表し、学内外に教育課程の体系性を明示する仕組みです。このナンバリングは、履修登録をする際、適切な授業科目を選択する目安ともなります。

(2) 科目ナンバリングの構成

科目ナンバーは、以下のような6桁の英数字から構成されています。

(1桁目) (2桁目) (3桁目) (4桁目) (5桁目) (6桁目)
A B 1 2 0 1

[科目ナンバー一覧]

1桁目 (大学共通科目・各学部専門科目)		2桁目 (科目区分)		3桁目 (開講セメスター)		4桁目 (単位数)	5~6桁目 (連番)	
大学 共通	大学共通コア科目	C	未来展望科目	F	1年次 春学期	1	修得 でき る 単 位 数	科 目 区 分 毎 の 連 番
			公民教養科目	C	1年次 秋学期	2		
			アカデミックスキル科目	A	2年次 春学期	3		
			英語科目	E	2年次 秋学期	4		
			第二外国語科目	L	3年次 春学期	5		
			日本語科目	J	3年次 秋学期	6		
			スタートアップ科目	U	4年次 春学期	7		
			キャリア科目	R	4年次 秋学期	8		
経済 経営	経済経営学部 経済学科 経営学科	Z E B	スポーツ・ライフスキル科目	S				
			入門科目	B				
			キャリア科目	C				
			基礎科目	F				
人文	人文学部 歴史文化学科 心理学科	Y H P	展開科目	E				
			基礎科目	F				
			共通科目	C				
健康 医療	健康医療学部 看護学科 言語聴覚学科 健康スポーツ学科	W N R T	演習科目	S				
			基礎分野	F				
			専門基礎分野	S				
			専門分野	M				
バイ オ	バイオ環境学部 バイオサイエンス学科 バイオ環境デザイン学科 食農学科	V S K F	基礎科目	F				
			応用科目	A				
			実習科目	P				
			演習科目	S				
工	機械電気システム工学科	M	医療関連科目	M				
			基礎科目	F				
			専門基礎科目	S				
			専門科目	M				
			英語科目	E				
			日本語科目	J				
			スタートアップ科目	U				
			キャリア科目	R				
専門共通科目	C							
専門科目	S							
実験・実習科目	X							
総合演習科目	G							

Ⅳ. 出席管理システムについて

本学では、出席管理システムを導入しています。毎講時、授業が始まる際に教室に設置されているタッチパネル式の出席管理システム端末に学生証をかざすと、自動的に出席状況が登録されます。

必ず学生証を携帯し、各授業の際にかざしてください。これを行わないと、たとえ出席していても欠席の扱いとなってしまいます。学生のみなさんの出席・遅刻の情報は先端なびで一元管理されます。科目担当教員は、このシステムに登録された出欠情報に基づいて出欠の確認を行うことを原則としますが、担当教員によっては授業終了時の小テスト提出など他の要件を課す場合もあります。

1. 出席・遅刻・欠席の扱いについて

授業開始の8分前、出席データの読み取りが可能となります。

授業開始の5分後、遅刻の扱いへ切り替わります。

授業開始から20分以降は、欠席扱いになります。

2. 出席の不正行為について

学生証の貸し借り（出席の不正行為）を発見した場合は、本学の「学生の懲戒に関する規程」に基づき対処します。

3. 出席票の交付について

学生証紛失による再発行手続中や、学生証を忘れた場合は、授業開始前に教務センターで「出席票」の交付を受け、授業で提出してください。

なお、「出席票」交付の際には、身分証明書が必要です。

V. 試験

1. 定期試験

一部の授業を除き、原則として学期毎に定期試験が行われます。定期試験は、日頃の学修の到達点を確認する重要なものです。また、本学では定期試験を厳正に執行しています。

定期試験の種類には、主として次の3種類があります。なお、複数の方法を組み合わせて実施される場合もあります。

- ①筆記試験
- ②レポート試験
- ③実技試験

(1) 定期試験の時間

① 試験時間割

定期試験の時間割は、原則として試験開始の2週間前に発表します。

② 試験時間帯

京都太秦キャンパス

1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時
8:50～9:50	10:30～11:30	12:40～13:40	14:20～15:20	16:00～17:00

京都亀岡キャンパス

1 講時	2 講時	3 講時	4 講時	5 講時
9:30～10:30	11:10～12:10	13:20～14:20	15:00～16:00	16:40～17:40

※一部の学部において、試験時間 90 分の科目があります。対象科目は定期試験時間割で確認してください。

(2) 試験に関する注意事項

[筆記試験]

- ① 試験会場には、学生証を必ず持参すること。
- ② 学生証を忘れた場合は、教務センターで「受験許可証」の交付を受けること。
- ③ 指示された試験会場で受験すること。
- ④ 試験開始時刻から 20 分以上遅刻した場合は受験資格を失います。
- ⑤ 試験開始後 30 分以上（試験時間が 90 分の科目は 45 分以上）経過し監督者が認めた場合、途中退出することができません。

◇筆記試験の受験上の注意事項

- ① 試験会場では、試験監督者の指示・注意に従うこと。
- ② 学生証の「顔写真」は、試験監督者によく見えるように机の上に置くこと。
- ③ スマートフォン等の電子機器類は、試験中は必ず電源を切り、カバンの中に入れること。
- ④ 持込許可品以外の物品は、カバンの中に入れること。
- ⑤ 不正と疑われる行為を発見した場合、次頁「(3) 不正行為」に記された内容で処分します。
- ⑥ 答案を無効として取り扱う場合
 - ・答案が無記名の場合（学籍番号・氏名、どちらか一方が記入されていない場合でも無効となります）
 - ・替え玉受験を行った場合
 - ・指定された場所に答案を提出していない場合
 - ・受験態度が不良な場合（試験の実施を阻害すると認められる行為を行った場合）

[レポート試験]

① レポートの課題

原則、「先端なび」に掲示します。ただし、授業中に口頭連絡で提示される場合もあります。

- ② 提出期限について
提出期限については、科目毎に担当教員が指定します。
- ③ 提出方法
原則、「先端なび」上で提出。

◇レポート試験に関する注意事項

授業中に提出するように指示された場合は、授業中に提出してください。授業に遅刻・欠席し提出できない場合も、教務センターでは一切受け付けていません。提出期限に余裕を持って提出してください。なお、教員の電話番号・住所等の公開はしていません。

また、授業で課せられるレポートや論文を作成する際には、書籍等の著作物や Web サイトで他人の考えを参考にしたり、データを分析しながら、自分の考えを提示することが求められます。著作物や Web サイトの記事をそのまま無断で引用する剽窃（ひょうせつ）行為（コピー＆ペースト等）は、社会的に許されない行為であり、他者の著作権を侵害する違法な行為となる場合もあります。剽窃行為が発見された場合は、本学として以下の通り対処します。

[剽窃行為についての本学の対処]

- ① レポート等の提出物を評価する教員が剽窃行為であると判断した場合は、当該提出物の評価は零点とする。
- ② 他の学生が作成したレポート等を自分が作成したかのように記述してレポート等を提出した場合、剽窃行為を行った学生だけでなく、同行を行った学生に自分のレポート等を見せた学生についても、提出物の評価は零点とする。

[生成系 AI についての本学の対応]

本学では、生成系 AI が提供する文章や情報を、大学で履修する授業の学修成果として提出する課題やレポートなどの成果物に、そのまま利用することは認めていません。本学に提出する成果物は自分で書いた文章で構成され、他所の情報を引用する場合は必ず正確に出典を表記することを求めています。提出された成果物が、適切な対応を取らずに、生成系 AI の利用が発覚した場合は、剽窃行為とみなすなど厳正に対処します。

(3) 不正行為

次の行為が、不正行為にあたります。

- | |
|--|
| <ol style="list-style-type: none">① 代理人による受験および、受験を他人に依頼した場合② 持込許可品以外の物品を持ち込み、またそれらを参照した場合③ 筆記用具や持込許可品などを貸借した場合（貸した側、借りた側双方が処分されます。）④ 机等に不正な書き込みをして受験した場合⑤ 解答用紙の交換、筆写を行った場合⑥ 口頭等により不正な連絡を行った場合⑦ 解答用紙を持ち帰った場合⑧ 監督者の指示に従わなかった場合 |
|--|

定期試験・レポート試験中に学生が不正行為通告書を提示された場合は、試験終了後に事情聴取を受けることとなります。その後、調査委員会が不正行為と認定した場合は、当該学生は受験資格を喪失し、自宅待機を命じられます。

[不正行為に対する処分]

学生が不正行為を行った場合は、大学による厳正な処分を受けます。成績評価については、不正行為を行った科目だけでなく、そのセメスターに履修したすべての科目が「不合格（F）/素点:0点」とされ、単位が授与されません（ただし、学部学科が指定した学外実習科目等は除く）。さらに懲戒処分として、本学の「学生の懲戒に関する規程」に基づいて、厳正に対処します。

(注) 「大学コンソーシアム京都」、「放送大学」開設科目を受講している場合

他大学・短期大学等での受験に際しても、不正行為があった場合は全受験科目（本学・他大学等の科目）すべてを非受験扱いとし、所属学部の教授会において審議の上、厳重な処分を受けることとなります。

2. 追試験

下記表の事由により定期試験を欠席し、所定の手続きにより許可された場合のみ受験できます。願い出により実施される試験です。

(1) 受験資格

追試験を申請できるのは、定期試験を次の事由により受験できなかった場合で、かつ証明書が入手できる場合に限られます。

	事由	証明書	備考
1	学校保健安全法施行規則 18 条で定める感染症に罹患し、大学が出席停止を求めた場合	医師の診断書	加療期間が明記されている等、当日欠席が必要であることが分かる診断書 例：インフルエンザの場合、出席には発症から 5 日、解熱から 2 日経過していることが必要
2	公共交通機関の連休・遅延	連休・遅延証明書	WEB からダウンロードした遅延証明書を提出する場合、各公共交通機関 HP に掲載されているリアルタイムの交通状況の画面（スクリーンショットしたもの）も提出が必要
3	3親等以内の慶事・忌引き	案内状、招待状、会葬礼状、葬儀証明書など	
4	自己の責めに帰さない不慮の事故または災害	事故証明書など	診断書の提出を求める場合もある。車、バイク、自転車での通学途上での交通事故・故障・交通渋滞による遅延は含まない。
5	課外活動	公式大会要項など	体育連合協議会、文化連合協議会所属団体の内、部として認められている団体に限る。参加者名簿を添付すること。
6	教員免許取得にかかる教育実習・介護等体験および博物館実習	教務センターの証明書	
7	資格試験・就職試験	受験証明書など	
8	単位互換科目（大学コンソーシアム京都・放送大学）の授業・試験と重複する場合	受講・受験証明書	
9	1 以外の病气・怪我で医師が加療を指示した場合	医師の診断書	加療期間が明記されている等、当日欠席が必要であることが分かる診断書
10	その他大学が正当と認めた事由	大学が指示する証明書	補講との重複など

※p.7「やむを得ない欠席となる事由」と同様

(2) 申請手続き

当該科目の試験終了後 2 日以内（試験当日・土日祝を含まない）に、追試験申請書に所定の証明書を添えて、教務センター窓口にて速やかに提出してください。

※ 指定された追試験日時に受験できなかった場合は、受験資格を失います。

3. 再試験

試験（追試験含む）の結果「不合格」と判定された場合、特定の科目（再試験対象科目）については、再試験を受けることができます。ただし再試験に対する追試験は実施しません。再試験で合格となった場合の成績評価はすべて60点（「C」）となります。また再試験で「不合格」となった科目は、以後のセメスターに授業を再履修することになります。

（1）受験資格

再試験実施科目の科目担当教員が認めた場合に受験できます。

（2）申請手続き

再試験の受験対象者には、「先端なび」を通じて教務センターより連絡します。再試験の受験を希望する場合は、試験前に配布される「実施要領」に従い申請してください。再試験受験には、受験料1科目につき3,000円が必要です。

※ 指定された再試験日時に受験しない場合は、当該科目は「不合格（F）」となります。

※ 「1.定期試験」「2.追試験」「3.再試験」以外に、科目担当教員の判断で、適宜授業内に試験が実施される場合があります。

VI. 成績・GPA

1. 成績評価

成績評価は、シラバスに記載されている成績評価方法にしたがって行われます。合格した科目は、取り消したり、再度受講登録したりすることはできません。

2. 成績

	評価		成績表への記載	成績証明書への記載
	記号	素点		
合格	S	100~90	記号表記と 素点表記	記号表記
	A	89~80		
	B	79~70		
	C	69~60		
	N	N	記号表記	
不合格	F	59~0	記号表記と素点表記	表記なし

※ 記号「N」は「認定」を表します。単位互換等で認定された科目は、「N」と記載されます。

3. 成績発表

春学期は9月上旬頃、秋学期は3月中旬頃に発表します。

4. GPA

本学では、GPA (Grade Point Average) を導入しています。GPA とは大学の成績評価を数値化したもので、学力を測る指標となっています。GPA は、成績評価に記載しています。

※GPA 値は、学内における奨学金審査等で用いられています。成績基準として GPA 値が各種奨学金やその他の申請等の条件となる場合には、別途募集要項等に記載します。

(1) 本学の GPA 換算方法

(計算式)

$$\text{GPA} = \frac{(4 \text{ ポイント} \times \text{Sの科目の単位数合計}) + (3 \text{ ポイント} \times \text{Aの科目の単位数合計}) + (2 \text{ ポイント} \times \text{Bの科目の単位数合計}) + (1 \text{ ポイント} \times \text{Cの科目の単位数合計}) + (0 \text{ ポイント} \times \text{Fの科目の単位数合計})}{\text{総単位数 (履修登録科目の単位数)}}$$

GPA 換算時の対象科目は、履修登録をしたすべての科目となります。不合格となった科目も対象となり、分母に加算されます。また、再履修した科目は全ての成績が対象となり、分母には延べ単位数が加算されます。

※卒業要件に算入しない資格科目は除きます。

※大学コンソーシアム京都単位互換科目、留学によって修得した認定科目など（評価が「N」と表される科目）は除きます。

5. 成績表記調査

シラバスに記載された評価基準、および授業の中での評価基準の説明を十分に理解した上で、明らかに自分の成績が誤りであると考えられ、それを具体的に説明できる場合、成績表記調査を申し出ることができます。

申請方法：申請方法および申請期間については、先端なびよりお知らせします。

受付：成績表記調査の申請内容を確認して、明らかに成績表記に誤りがあると思われる場合は、受け付けます。

回答：先端なびより回答します。

注意：成績表記が誤りであるケースは極めて少なく、学生本人が評価方法や授業中の説明を理解していないために、成績表記が誤りであると思い込んでいるケースが大半です。事前に十分に検討してください。

VII. 単位授与及び認定

1. 単位授与

授業科目を履修し、原則として春学期末または秋学期末に行われる試験に合格した者には、所定の単位が与えられます。

試験の方法は、p.16「V. 試験」に示した筆記試験・レポート試験・実技試験などがありますが、科目によっては通常の授業時の成績を試験成績とすることがあります。

出席日数が不足している、あるいは途中で受講を放棄した場合は、その科目の単位は授与されません。

2. 単位授与の時期

単位授与は、原則として9月・3月（各学期終了後）に行います。

単位授与されるには、単位授与時期に、学籍状態が「在学」または「留学」中である必要があります。（「休学」中の場合は、単位授与されません）。

3. 他大学等で修得した単位の認定

教育上有益と認めた場合は、海外留学や国内留学、単位互換制度等を履修することができます。修得した単位は、60単位を限度とし学部教授会の審議を経て卒業認定単位として認めることがあります。なお、60単位の上限は、個々の留学プログラム毎ではなく、他大学等で修得した単位全体の上限となります。また、上限単位は、各学期の履修登録制限単位数を超えて認定する事は出来ませんので、注意してください。

Ⅷ. 進級要件

1. 進級要件

進級するためには、各学年において学科で定めた要件を満たすことが必要です。

【経済学科、経営学科、心理学科、歴史文化学科、バイオサイエンス学科、バイオ環境デザイン学科、食農学科、健康スポーツ学科】

	1 年次終了時	2 年次終了時	3 年次終了時
修得単位数※	28 単位以上	60 単位以上	96 単位以上 (バイオ環境学部は 100 単位以上)
単位修得が 必要な 大学共通 コア科目	スタートアップゼミ I	スタートアップゼミ II 日本語リテラシー I・II 数的処理 I・II 情報リテラシー 英語 I、英会話 I キャリアデザイン I・II SLS I・II (バイオ環境学部 は SLS I-B、II) *外国人留学生は、日本語リテラ シー I・II と 数的処理 I・II の代 替として、日本語 I・II の単位を 修得していること。	英語 II・III 英会話 II・III SLS III・IV (バイオ環境学部 は SLS IV 不要) *外国人留学生は、さらに日本語 作文演習の単位を修得している こと。
単位修得が 必要な 専門科目		経済学科：ミクロ経済入門、 マクロ経済入門 経営学科：会計学入門、経営 戦略論入門 心理学科： 社会・産業基礎演習、心理 演習、および心理学実験の 内、2 科目以上の単位を修 得していること。	
在学期間 (休学期間 は除く)	1 年次に 1 年間に在学している こと。	2 年次進級後に 1 年間に在学 していること。	3 年次進級後に 1 年間に在学し ていること。

※卒業要件に算入されない科目の修得単位数は含まれません。

【看護学科、言語聴覚学科】

	2 年次終了時	3 年次終了時
修得単位数※	基礎分野における卒業要件 (22 単位以上の修得)	—
修得科目	2 年次終了時までに関講した必修科目すべて	3 年次終了時までに関講した必修科目すべて

※卒業要件に算入されない科目の修得単位数は含まれません。

【機械電気システム工学科】

	1 年次終了時	2 年次終了時	3 年次終了時
修得単位数 ※	28 単位以上	60 単位以上	96 単位以上
必修科目 (共通)		英語科目より 必修 10 単位を含む 18 単位以上	
必修科目 (専門)	物理学Ⅰ 物理学Ⅰ 演習 微分積分と線形代数Ⅰ 微分積分と線形代数Ⅰ 演習		プレキャップストーンプロジェクトⅠ プレキャップストーンプロジェクトⅡ
在学期間 ※休学期間 は除く	1 年次に 1 年間に在学している こと。	2 年次進級後に 1 年間に 在学していること。	3 年次進級後に 1 年間に在学している こと。

※卒業要件に算入されない科目の修得単位数は含まれません。

Ⅸ. 学修者本位の学び

1. 学修者本位の学び

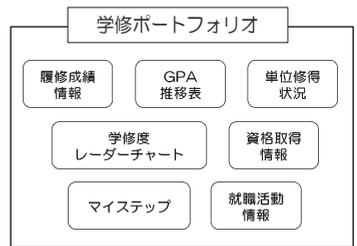
今後の社会が求める人材像は、「基礎的で普遍的な知識・理解と汎用的な技能を持ち、その知識や技能を活用でき、ジレンマを克服することも含めたコミュニケーション能力を持ち、自律的に責任ある行動をとれる人材」です。また、大学・学部・学科は、それぞれ「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー：DP)」として、学生の卒業要件を定めています(履修要項 p.2、および各学部・学科ページ参照)。

文部科学省の指針により、このような人材の育成を目標とした高等教育のあり方は、大学が学生に対して「何を教えるか」ではなく、学生自身が目指す姿になるために「何を学び、身に付けるのか」に変わってきました。この、学生が自らの学修の成果を実感しながら必要な能力を身に付けていくことを「学修者本位の学び」と呼びます。

「学修者本位の学び」を効率よく進めるツールとして、先端なびには「学修ポートフォリオ」と、「マイステップ」が用意されています。

2. 学修ポートフォリオ

学修ポートフォリオは、学生一人ひとりの学修情報(履修成績情報、資格、GPA 推移、単位修得状況)から就職活動情報までを一元的に確認できるツールです。そのなかには「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー：DP)」への到達度を可視化した「学修度レーダーチャート」があります。また、これは学修の自己管理ツール「マイステップ」とも連携しています。学修ポートフォリオを上手に活用することにより、自分自身の成長(学修進捗度)をGPAだけではなく、より広い視点から確認してください。



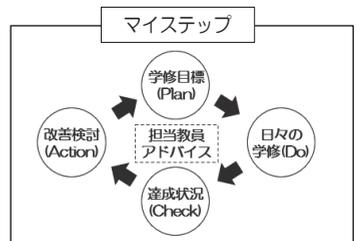
3. 学修度レーダーチャート

各授業科目は「学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー：DP)」の7項目に割り付けられています。学修度レーダーチャートとは、学生のDPに対する伸長状況を、セメスター毎に修得した科目の成績も考慮して算出し、可視化したものです。上級生になるにつれ、また成績上位になるにつれ、相対的にレーダーチャートの面積は大きくなります。学科・コースの到達モデルと比較することで、伸びている点、欠けている点がわかりますので、自分の学修到達度を把握するとともに、翌セメスターの履修登録時の検討材料にしてください。



4. マイステップ(学修の自己管理ツール)

「学修者本位の学び」を進めるには、学生自身が「学修目標を立てる(Plan)」「日々の学修を行う(Do)」「達成状況をチェックする(Check)」「改善検討を行う(Action)」と、翌セメスターにはまた「新しい学修目標を立てる(Plan)」というPDCAサイクルを回す必要があります。マイステップは、セメスター毎に学修目標・達成状況・改善ポイント等を入力することで、セメスター毎に学修の自己管理ができるツールになっています。学修目標設定時と成績発表時には、担当教員から面談等を通して入力内容に対するアドバイスがフィードバックされますので、それらも参考にしながら、自身が目指す姿になるための取り組みを、主体的に進めてください。



X. 卒業と学位

1. 卒業および学位

卒業するためには、大学が定める教育課程に従って学修し、次の卒業要件をすべて満たすことが必要です。

- (1) 所定在学年数
8セメスター以上在学し、各学年1年以上在学していること。休学期間は在学年数に含みません。
- (2) 所定単位の修得
卒業に必要な単位数（要卒単位数）・必修条件等を満たしていること。
- (3) 卒業判定
所定在学年数の要件を満たすことになる在学学生を対象に卒業判定を行います。この卒業判定に合格した場合に、卒業が認められます。

2. 学位

学部名	学科名	学位
経済経営学部	経済学科	学士（経済学）
	経営学科	学士（経営学）
人文学部	心理学科	学士（人文）
	歴史文化学科	学士（人文）
バイオ環境学部	バイオサイエンス学科	学士（バイオ環境）
	バイオ環境デザイン学科	学士（バイオ環境）
	食農学科	学士（バイオ環境）
健康医療学部	看護学科	学士（看護学）
	言語聴覚学科	学士（言語聴覚学）
	健康スポーツ学科	学士（健康スポーツ学）
工学部	機械電気システム工学科	学士（工学）

3. 卒業見込

- (1) 卒業見込証明書とは
「卒業見込証明書」とは卒業見込日が記載された証明書であり、就職試験や大学院入試等で受験先から提出を求められます。卒業見込は、卒業を保証するものではありません。
- (2) 証明書発行基準
卒業見込証明書の発行基準は次頁のとおりです。

【卒業見込証明書発行基準】

以下の表に記載されている各セメスター開始時の修得単位数（卒業要件に含まれる単位数）を満たしている場合、卒業見込証明書が発行されます。

所属学部	所属学科	卒業に必要な単位数	第7セメスター開始時修得単位数	第8セメスター開始時修得単位数
経済経営学部	経済学科	124 単位	4年次に在籍していること	100 単位以上
	経営学科			
人文学部	心理学科	124 単位		100 単位以上
	歴史文化学科	128 単位		104 単位以上
バイオ環境学部	バイオサイエンス学科	128 単位		108 単位以上
	バイオ環境デザイン学科			
	食農学科			
健康医療学部	看護学科	126 単位		121 単位以上
	言語聴覚学科	124 単位		118 単位以上
	健康スポーツ学科			100 単位以上
工学部	機械電気システム工学科	128 単位	104 単位以上	

※第7セメスターで卒業見込証明書を発行されていた場合でも、成績次第で第8セメスターでは発行されない場合があります。

XI. 学籍

学籍は、入学によって発生し、卒業、退学、除籍によって喪失します。学籍の種類は、在籍（在学・休学・留学）、卒業、除籍、退学などがあります。

1. 学籍番号

入学を許可した者に学籍番号を付与します。学籍番号は、原則として在籍中も卒業後も変わりません。

2. 学生証

学生証は、本学の学生であることを証明する大切なものです。以下の場合に提示が必要になりますので、常に携帯してください。

- ・定期試験の受験
- ・各種証明書の交付
- ・出席管理システム（p.15「Ⅳ. 出席管理システムについて」参照）
- ・本学教職員等から提示を求められたとき

※学生証を紛失・盗難にあった場合は、教務センターに届け出てください。

※学生証の有効期間は、4年間です。

3. 在籍について

在籍には、在学、休学、留学の3つがあります。

(1) 休学

病気その他の事由により1セメスターにつき継続して3ヵ月以上就学できない見込みの場合は、休学を願い出ることができます。

① 休学の願い出

「休学願」に事由を明記して、保証人との連署で願い出てください（病気等で休学する場合は診断書を添付）。感染症、その他の病気のために就学不相当と認められた場合は、学部長が休学を命ずることがあります。

② 休学期間

休学期間は、継続して2年を超えることはできません。ただし、特別な理由がある場合（例えば、留学生で母国の兵役により、休学期間が2年を超える場合）は、引き続き1年以内に限り延長することができます。休学の期間は、入学時から通算して4年を超えることはできません。

③ 休学中の学費

休学中は学費の納付を免除します。ただし、休学期間中はセメスター毎に在籍料（10,000円）を納付しなければなりません。

※当該学期の学費を既に納入している場合、学費の返還はできません。

(2) 留学

本学が提供する留学プログラムで留学する場合、学部の教授会で審議します。留学が認められた場合、留学期間は、在学年数に算入します。

4. 復学について

休学者が復学を希望する場合、休学期間が満了する2週間前までに「復学願」を提出し許可を得ること。「復学願」を保証人と連署で提出してください。病気等で休学していた場合は、就学ができることを証明する書類（診断書等）を添付してください。

※期日までに復学願が提出されない場合は除籍となります。

5. 再入学

(1) 再入学を願い出ることができるのは、次の事由により学籍を喪失した場合に限ります。

- ① 退学により学籍を喪失した場合
- ② 休学後、期日までに復学手続きができなかった場合
- ③ 除籍後、期日までに復籍手続きができなかった場合

(2) 再入学申し出期間

上記①～③の学籍喪失日（退学日・除籍日）より2年以内で、再入学しようとする各学期の1ヵ月前まで。

(3) 再入学金

再入学を希望する場合は、再入学金（130,000円）が必要です。

※改組・転換等により、退学・除籍以前に在学していた学部学科が開設されていない場合は、現在開設されている学部学科に変更して出願できますので、出願前にご相談ください。

6. 学籍の喪失

学籍を喪失（本学の学生でなくなる）する場合として、卒業と退学、除籍の3種類があります。

(1) 卒業

各学部の修業年限以上在学し、各学部で定める卒業に必要な単位を修得した場合に卒業となり、学士の称号が与えられます。

(2) 退学

事情により、退学するときは所定の手続きが必要となります。

・ 原則として、指導担当教員（担任・チューター等）と面談する必要があります。

・ 「退学願」に事由を明記して、保証人との連署により学生証を添えて願い出てください。

※懲戒すべき事由で退学した学生は、原則再入学は認めません。

※退学にあたり、当該学期の学費を既に納入している場合、学費の返還はできません。

(3) 除籍

以下に該当する者は除籍となり、本学の学生の身分を失います。

・ 定められた期間に所定の学費を納入しない場合

・ 修学期間が8年を超える場合

・ 休学期間の満了する2週間前までに、復学手続きがない場合

・ 死亡した場合

7. 復籍について

上記「6. 学籍の喪失」「(3) 除籍」で学費未納の場合に限り、除籍措置の日から1ヵ月以内であれば、願い出により復籍することができます。所定の学費を納入し、復籍願に保証人と連署の上、復籍料（10,000円）とともに願い出てください。

除籍措置の日から1ヵ月を超えると、復籍できません。その場合は、再入学の手続きとなります。

8. 転学部・転学科

転学部・転学科を希望する場合は、春学期は6月15日、秋学期は1月末日までに教務センターに申請してください。ただし、転学先の学部・学科に欠員のある場合に限り、選考の上、転学を許可します。

学籍関係事項について(申し合せ)

休学、復学、退学、再入学、除籍、復籍、転・編入学、転学部、転学科については、京都先端科学大学学則第19条、第20条、第21条および第28条に定めるほか、この規定の定めるところによる。

〈休学〉

1. 病気その他の事由により3ヵ月を超えて就学できない者は、所定の様式により学部長に休学願いを提出し、許可を得て休学することができる。
2. 伝染病、その他の病気のため就学不相当と認められた者に対しては、学部長は休学を命ずることがある。
3. 休学の期間は継続2年を超えることはできない。ただし、特別の理由がある場合、引き続き1年以内に限って延長することができる。
4. 休学の期間は、通算して4年を超えることはできない。
5. 休学期間内の学費は、免除する。ただし、在籍料としてその年度の学期毎に10,000円を指定の日までに納付しなければならない。なお、その年度の学費納入者にあつては、在籍料は免除する。

〈復学〉

1. 休学者が復学しようとするときは、復学しようとする学期の2週間前までに所定の様式により復学願いを学部長に提出し、許可を得て復学することができる。

2. 復学を許可する時期は、春学期および秋学期の始めとする。ただし秋学期復学者の受講は、秋学期において開講する授業科目のみとする。

3. 休学者が休学期間の終わる2週間前までに復学手続をしなかった場合は、その休学期間の末日をもって除籍する。

〈退学〉

1. 病気その他の事由により退学しようとする者は、所定の様式により退学願いに学生証を添えて学部長に提出し許可を受けなければならない。
2. 退学者の退学日付は、退学願いの日付とする。ただし上記の者が退学願いの日付までの学費を滞納している場合は、学費の納入されている期間の末日をもって退学の日付とする。

〈再入学〉

1. 再入学を願い出ることができる期間は、退学の日より2年以内とする。
2. 再入学を許可された者は、再入学金を指定の日までに納付しなければならない。
3. 再入学金は再入学した年度の入学金の2分の1とし、学費は再入学した学籍年度の額とする。
4. 再入学を許可する時期は、毎学期の始めとする。

〈除籍〉

次の場合は除籍とする。

1. 授業料その他の学費の滞納期間が1ヵ月を超える者。
2. 修学期間が8年を超える者。
3. 正当な理由がなく、所定の手続きを怠り、就学の意志のない者。
4. 死亡した者。

〈復籍〉

1. 授業料その他学費の未納によって除籍された者が、除籍処置の日から1ヵ月以内に保証人連署をもって学部長に復籍を願い出た場合にのみ、復籍を許可することができる。
2. 復籍手続をする場合は、復籍金10,000円と滞納の学費とを納付しなければならない。
3. 除籍処置の日から1ヵ月を超えた者、又は学費未納以外の理由によって除籍された者が、復籍を希望する場合は、再入学をするものとみなして取扱うものとする。

〈転学 編入学〉

1. 他の大学に転学を希望する場合は、退学願を提出し教授会の議を経てこれを許可することがある。

〈転学部・転学科〉

1. 転学部・転学科は、各学部・各学科に欠員が生じた場合に限り、選考の上、志願学部教授会の議を経てこれを許可することがある。
2. 転学部・転学科を希望する者は、所定の期日までに、志願学部長に願い出るものとする。
3. 転学部・転学科の併願及び再転学部・再転学科はこれを認めない。
4. 転学部・転学科を許可された者は、学期始めをもって転籍するものとする。
5. 転学部・転学科を許可された者は、所定の期日までに手数料及び学費等を納付しなければならない。手数料は10,000円とし、学費は新所属学部・学科の当該年次生と同額とする。
6. 転学部者・転学科者の既修得単位の認定については、各学部において定める。

学生留学内規 平成11年9月17日制定

第1条 京都先端科学大学学則(以下「学則」という。)第14条に基づく他の大学または短期大学への留学に関しては、学則に定めるもののほか、この内規による。

第2条 この内規にいう留学とは、他の大学または短期大学の特定の授業科目を履修するために現地で留まり、本学での履修は行わない場合をいう。

第3条 留学の対象となる大学等とは、国内においては留学(単位互換)に関して本学と協定を結んだ大学、外国においては留学に関して本学と協定または合意している大学等、あるいは学位授与権を有する大学等及びこれに相当すると学長が認めた教育機関をいう。

第4条 留学できる者は、本学に1年以上在学した者でなければならない。

第5条 留学する者の学籍上の取扱いは、留学とし、休学扱いしない。留学期間は在学期間に算入する。

第6条 留学期間は1年以内とする。

- 2 外国留学で特別の事情がある場合は、1年以内に限り留学の延長を許可することがある。

第7条 留学を希望する場合は、所定の留学願及び留学予定先の留学許可を証する書類の写し等必要書類を当該学部長を通じて学長に提出しなければならない。

- 2 留学の許可は、当該学部教授会の議を経て、学長が行う。

- 第8条 外国留学で留学期間の延長を願い出る場合は、留学延長願を当該学部長を通じて学長に提出しなければならない。
- 第9条 留学を終了した者は、指定の留学終了届を当該学部長を通じて学長に提出しなければならない。
- 第10条 留学期間中に修得した授業科目の単位を本学の卒業要件の単位として認定を受けようとする者は、留学先大学等の発行した成績証明書等必要書類を添付した単位認定願を当該学部長に提出しなければならない。
- 2 前項の単位の認定は、当該学部教授会の議を経て学部長がこれを行う。この場合の認定し得る単位数は60単位を限度とする。
- 第11条 年度の途中から留学する者は、留学前に科目登録し受講している授業科目について、留学終了後に再度科目登録し、継続して履修することができる。ただし、開講している科目に限る。春学期開講科目または秋学期開講科目についても、年度当初または秋学期登録期間に科目登録し、履修することを認める。
- 第12条 留学中の学費の取扱については、本学学費規程によるものとする。
- 第13条 留学している者が当初の目的を達成することができず、学生の本分に反する行為があったと認められるとき、学長は、当該学部教授会の議を経て、留学の許可を取り消すことができる。
- 第14条 外国の語学専門学校のうち、学長が認めた学校における10週間以上の語学研修も留学の対象とする。
- 2 前項の留学を終えて、第10条に該当しない授業科目の履修を本学の科目の単位として認定を受けようとする者は、履修時間数及び修了証書等必要書類を添付した単位認定願を当該学部長に提出しなければならない。
- 第15条 この内規の改廃は、大学国際部会、各学部教授会及び大学評議会の議を経るものとする。
- 附則省略

第2部 教育課程

工学部機械電気システム工学科 教育目的と3つのポリシー

<工学部機械電気システム工学科の教育目的>

機械分野と電気分野に跨る専門分野の基礎知識を修得した上で、物事の本質を把握し論理的に思考する能力を身に付け、グローバルな視点で社会ニーズに基づく問題を発見し、自らの専門能力を総合的に駆使して適切に解決できる人材の育成を目的とする。

<学位授与の方針> (ディプロマ・ポリシー)

工学部機械電気システム工学科では、4年以上在学し、所定の単位を取得し、下記の能力を身につけたと判断できる学生に対し卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。

1. 機械分野と電気分野に跨る学際的な工学分野の知識体系を他領域の知識と関連づけながら修得し、変容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。
2. 必要な情報を適切な方法を用いて収集し、活用できる。
3. 専門知識や意見について、日本語と英語を用いて他者と意思疎通を行うことができる。
4. 修得した知識、技能並びに経験を活かして、複眼的思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現することができる。
5. 自ら設定した主題に対して、文献調査、実験等で収集した情報に基づき、客観的に分析しながら論理的、批判的に考察することができる。
6. 学びを通じ、変容するグローバル社会の諸問題に継続的に関心を示し、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。
7. 多様な他者と協働しながら、自律的な社会人として行動できる。

<教育課程編成・実施の方針> (カリキュラム・ポリシー)

ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を有する人材を育成するために、以下の方針に基づいた教育プログラムを実施する。

1. 教育課程として、大学共通科目および学部専門科目を配置する。
2. 機械工学と電気工学に跨る学際領域分野の専門基礎科目と専門科目(専門知識と専門技能)を修得させ、多角的に真理を探究する力を育成する。
3. 専門科目(専門知識と専門技能)を修得後、総合演習科目(キャップストーン、卒業研究)を通じて、専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力を育成する。
4. 4年間の教育課程では、大学共通科目や学部専門科目を理論的に学修するだけでなく、実験・演習、総合演習も連動させながら実践的かつ能動的に学修する。
5. 基礎科目、専門基礎科目および専門科目としての実験・実習・総合演習を通じて、コミュニケーション力、協働力、課題発見力やリーダーシップを育む学修を行う。
6. 1年次には、スタートアップ科目で、基礎的な課題発見力・解決力およびコミュニケーション力を育む学修を行う。
7. 1年次および2年次には、基礎的な数学・物理・情報処理の知識修得を目指した学修を行い、また、身体活動を通じてコミュニケーション力・リーダーシップ・協調性を育む学修を行う。
8. 1年次から3年次には、グローバルな技術者としての基礎的な日本語と英語の語学力の修得を目指して、一貫したカリキュラムで学修する。
9. 総合演習科目で社会の一員として、社会の課題の解決を図る力を育む学修を行う。

<入学者受け入れの方針> (アドミッション・ポリシー)

本学部の教育目的に即した人材を育成するため、本学部の教育目的を理解し、意欲と主体性をもって勉学に励むことができ、高等学校の教育課程で修得する数学と理科（物理基礎・物理）を中心とした基礎的な学力とそれを活用する論理的思考力、また基礎的な英語力と英語コミュニケーション能力を備える人を求めます。

1. 工学を学ぶために必要な基礎的な知識・技能を有する。
2. 工学について考え、判断する能力があり、自分の考えを表現できる。
3. 工学に対する強い興味・関心があり、創造的思考力を育むため、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。
4. 複雑で複合的な問題に挑戦するために、多様な人々と協働して取り組める。
5. グローバル社会で活躍できる教養（専門性・先進性・多様性・道徳性）を身に付け、英語を中心とした語学力の向上を目指す意欲を持つ。

<学修成果評価の方針> (アセスメント・ポリシー)

1. 目的

本学のディプロマ・ポリシー (DP)、カリキュラム・ポリシー (CP)、及びアドミッション・ポリシー (AP) の達成状況を検証する方法を定めることにより、学生の学修成果を評価し、教育の改善を持続的に行う。

2. 機関レベル (大学全体)

学生の志望進路に対する就職率、資格・免許取得率、学生満足度調査などから、学修成果の達成状況を検証する。

3. 教育課程レベル (学部・学科)

キャップストーンプロジェクト・研究室プロジェクト報告書、単位取得状況、GPA などから、教育課程レベルでの学修成果の達成状況を検証する。

4. 科目レベル (授業)

シラバスで明示した成績評価基準に基づく評価、授業評価アンケートなどから、科目レベルでの学修成果の達成状況を検証する。

5. 検証方法

具体的な検証方法は次のとおりとする。

	入学前・入学時 (AP 達成状況の検証)	在学中 (CP 達成状況の検証)	卒業時 (DP 達成状況の検証)
機関 (大学全体)	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験 ・入学前教育 	<ul style="list-style-type: none"> ・外部テスト ・学生満足度調査 ・ポートフォリオ (マイルストーン) ・課外活動の状況 ・休学率 ・退学率 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位授与数 ・就職率 ・資格・免許取得率
教育課程 (工学部)	<ul style="list-style-type: none"> ・入学試験 ・入学前教育 ・留学生比率 	<ul style="list-style-type: none"> ・取得単位数 ・GPA ・外部テスト ・企業アンケート ・学生満足度調査 ・フレックサブルプロジェクト報告書 ・学外コンテスト ・ポートフォリオ (マイルストーン) ・休学率 ・退学率 	<ul style="list-style-type: none"> ・学位授与数 ・キャップストーンプロジェクト報告書 ・もしくは研究室プロジェクト報告書 ・就職率 ・大学院進学率 ・卒業アンケート
科目	<ul style="list-style-type: none"> ・入学前教育 ・英語プレースメントテスト 	<ul style="list-style-type: none"> ・成績評価 ・成果報告会 ・外部テスト ・授業評価アンケート ・企業アンケート 	

<カリキュラムマップ>

カリキュラムマップは、p.41 および本学ホームページに掲載していますのでご参照ください。



第1章 機械電気システム工学科

1. 卒業に必要な単位数

【科目区分】		必修	卒業要件	
大学共通科目	未来展望科目	-	4単位以上	
	公民教養科目			
	語学科目	英語科目	10	必修10単位を含む18単位以上 ※外国人留学生は日本語科目より18単位以上
		第二外国語科目	-	
		日本語科目※	10	
	スタートアップ科目	4		
キャリア教育科目	-			
スポーツ科目	4			
小計			30単位以上	

【科目区分】		必修	卒業要件	その他学部専門科目全体より9単位以上	
学部専門科目	専門共通科目	専門共通基礎科目	2		専門共通基礎科目、物理工学科目（基礎）、工業数学科目（基礎）、情報処理科目（基礎）計43単位より、必修35単位を含む36単位以上
		物理工学科目	基礎	14	
			工業数学科目	基礎	
		情報処理科目	応用	-	
			基礎	7	
	専門科目	設計生産（基礎/応用）	-	専門科目（基礎）12単位より、必修3単位を含む9単位以上 専門科目（応用・発展）47単位より24単位以上	
		ロボティクス（応用/発展）	-		
		計測（応用/発展）	-		
		制御（応用/発展）	-		
		力学（基礎）	3		
		材料（基礎）	-		
		イオニクス（基礎/応用/発展）	-		
		電磁気（応用）	-		
		アクチュエータ（応用/発展）	-		
エネルギー（応用）		-			
デバイス（応用）	-				
回路（応用）	-				
通信（応用）	-				
実験・実習	8	必修8単位を含む10単位以上			
総合演習★	6	必修6単位を含む10単位以上			
小計			98単位以上		

総計	128単位以上
----	---------

★総合演習の「キャップストーンプロジェクトⅠ・Ⅱ」または「研究室プロジェクトⅠ・Ⅱ」は選択必修科目とする。

卒業に必要な科目区分として、必ず修得しなければならない「必修科目」、指定された授業科目の中から自分で選択して修得する「選択科目」に分けられます。

卒業必要単位数128単位を修得するために、一定の要件に沿った履修を進めていってください。

2. 進級要件

上級学年に進級するためには、各学年において学科で定めた条件を満たさなければなりません。

	1 年次終了時	2 年次終了時	3 年次終了時
卒業要件としての修得単位数 ※	28 単位以上	60 単位以上	96 単位以上
必修科目 (共通)		英語科目より必修 10 単位を含む 18 単位以上	
必修科目 (専門)	物理学Ⅰ 物理学Ⅰ 演習 微分積分と線形代数Ⅰ 微分積分と線形代数Ⅰ 演習		プレキャップストーンプロジェクトⅠ プレキャップストーンプロジェクトⅡ
在学期間	1 年次に 1 年間在学していること。	2 年次進級後に 1 年間在学していること。	3 年次進級後に 1 年間在学していること。
留年期間・学費納入	留年期間は最低半年間とし、入学年次生の 1 年生の該当学費を納入する。	留年期間は最低半年間とし、入学年次生の 2 年生の該当学費を納入する。	留年期間は最低半年間とし、入学年次生の 3 年生の該当学費を納入する。

(※成績表の「認定単位数」枠内の単位)

3. 必修科目

各セメスターにおける必修科目は下記の通りです (丸数字は単位数)。

年次	セメ	大学共通科目	学部専門科目	単位数
1	1	英語文法Ⅰ② 工学英語Ⅰ② アクティブ・リーディング② アクティブ・リスニング② 英会話Ⅰ② スタートアップゼミ A② スポーツ・ライフスキルⅠ①	機械電気システム工学概論② 数値解析プログラミング② デザイン基礎②	19
	2	スタートアップゼミ B② スポーツ・ライフスキルⅡ①	物理学Ⅰ④ 物理学Ⅰ 演習② 微分積分と線形代数Ⅰ④ 微分積分と線形代数Ⅰ 演習② 情報リテラシー②	17
2	3	スポーツ・ライフスキルⅢ①	物理学Ⅱ⑥ 物理学Ⅱ 演習② 微分積分と線形代数Ⅱ④ 微分積分と線形代数Ⅱ 演習② Python プログラミング② Python プログラミング演習① 工業力学② 工業力学演習①	21
	4	スポーツ・ライフスキルⅣ①	機械製作実習③	4
3	5		メカトロ実習 (ロボット: 基礎) ③ プレキャップストーンプロジェクトⅠ②	5
	6		プレキャップストーンプロジェクトⅡ④	4

※必修科目は指定のセメスターで履修が義務付けられているため、自動的に履修登録されます。

※必修科目を修得できなかった場合、原則翌セメスター以降に再履修しなければなりません。

4. 履修登録

1) 履修登録制限（CAP制）

各セメスターにおいて、履修登録できる単位数の上限は原則24単位（年間48単位）です。この制限単位数には、各セメスターの自動登録科目の単位が含まれています。

ただし、「インターンシップ」「海外研修」「サービズ・ラーニング」の単位は登録制限単位数に含まれません。

2) 履修登録の留意点

履修登録はまず必修科目を優先してください。選択科目の履修登録にあたっては、次年度以降においては必修科目と開講時間が重なる場合や、開講されず履修登録ができなくなる場合があるので、次年度以降の履修登録についても十分検討した上で履修計画をたててください。

5. カリキュラムの構成

工学部機械電気システム工学科では、従来のメカトロニクス分野に包含される機械工学・電気工学・電子工学を中心に、化学工学・材料工学・情報工学も包含した新しい産業応用分野に対応する広義のメカトロニクス分野を教育・研究の対象とします。機械電気システム工学科のカリキュラムを学修することにより、「未来につながる課題を自ら設定し、それを解決できる先端人材」を育成します。

- 専門的知識・学術ならびに高い教養と、世界で通用する先進性・多様性・倫理観を涵養し、複雑で複合的な問題に挑戦できる人材
- 複数分野に跨る分野横断的技術作業に従事できる人材
- 英語でも日本語でも専門用語を使いながら仕事ができる人材

機械電気システム工学科のカリキュラムは「大学共通科目」と「学部専門科目」から構成され、主に以下のような特長のカリキュラムを提供します。

- ① 工学部で日本初の「キャップストーンプロジェクト」の導入
- ② 学部専門科目の講義をすべて英語で実施
- ③ ②のために、1年次春学期に週10コマ（1コマ：90分）の英語教育を実施
- ④ 専門共通科目「物理学」「工業数学」のコマ数は通常の工学部と比べて1.5倍配当
- ⑤ 「体験先行型の学び」の導入

（1）大学共通科目

大学での学修に必要な基礎能力や、社会人として求められる基本的能力を身につけます。

- 大学生を含む社会人としての教養の修得（未来展望科目、公民教養科目）
- 語学能力（語学科目）
- 基礎的な課題発見力・解決力およびコミュニケーション力（スタートアップ科目）
- 基礎的就業力育成（キャリア教育科目）
- 身体活動を通じたコミュニケーション力・リーダーシップ・協調性の育成（スポーツ科目）

学部専門科目の講義を英語で受講するために必要な英語力は、1年次春学期に週10コマの集中的な英語科目を含め、2年生終了までに配置した21コマ（「上級英語Ⅰ・Ⅱ」を含めると23コマ）の英語科目の授業で身につけます。1年次春学期に配置する10単位の英語科目は全て必修とし、必修10単位を含む18単位以上の英語科目の修得を2年生から3年生への進級要件とすることで、3年生以上での学部専門科目を英語で受講する力を担保します。

スタートアップ科目では、身の回りの生活から問題を発見し、関連知識を収集・共有し、グループ討論・ブレインストーミングを経て問題の解決に向けた提案・実装・効果確認・プレゼンテーション・レポート作成の実践を通して、大学における知識修得や研究に必要な理解力、探求力、表現力のスキルを身につけます。1年次春学期および秋学期に配置する「スタートアップゼミA・B」を、それぞれ必修科目として学修します。

キャリア教育科目では2年次秋学期に「キャリアデザイン」を配置しています。産業界より招へいた講師から技術が果たす社会的な使命・役割について学び、キャリア形成における倫理観も含めた技術者としての職業意識を身につけます。

スポーツ科目では「スポーツ・ライフスキルⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ」の4単位を必修化し、1年次と2年次で京都亀岡キャンパスのスポーツ施設で履修します。

(2) 学部専門科目

学部専門科目は、「専門共通科目」「専門科目」「実験・実習」「総合演習」に区分されます。さらに専門共通科目および専門科目の各科目は学修レベルに応じて「基礎」「応用」「発展」に分類されます。

(a) 専門共通科目

「専門共通基礎科目」「物理工学科目」「工業数学科目」「情報処理科目」の学修により、専門知識や専門技能を修得するために必要な物理・数学・情報処理や技術者としての使命感・倫理観を身につけます。

1年次春学期では「機械電気システム工学概論」および「数値解析プログラミング」が配当され、前者では学科カリキュラムの全体概要や科目の相互関係と実社会とのつながり、技術者としての社会的な使命や工学倫理、学部卒業後の進路(就職・進学)について学修し、後者では数値解析ソフトウェア「MATLAB」の基本を修得します。

1年次秋学期より本格的な英語での授業がスタートし、専門科目を履修するための基礎として「物理工学Ⅰ」「物理工学Ⅰ演習」「微分積分と線形代数Ⅰ」「微分積分と線形代数Ⅰ演習」を集中的に学修します。これら4科目の修得が1年生から2年生への進級要件となっています。また、「情報リテラシー」で情報処理とプログラミングの基本的な技術を修得します。

2年次春学期も引き続き、専門科目を履修するための基礎として「物理工学Ⅱ」「物理工学Ⅱ演習」「微分積分と線形代数Ⅱ」「微分積分と線形代数Ⅱ演習」を集中的に学修し、「Pythonプログラミング」「Pythonプログラミング演習」で一般的なプログラミングの技術を修得します。2年次春学期配当までの専門共通科目は全て必修であり、2年次秋学期以降は選択科目が配当されています。

(b) 専門科目

機械電気システム工学科における工学教育の中核として、「設計生産」「ロボティクス」「計測」「制御」「力学」「材料」「イオニクス」「電磁気」「アクチュエータ」「エネルギー」「デバイス」「回路」「通信」の13分野における専門知識や専門技能を2年次春学期より学修します。

「基礎」に分類されている科目は進路に依らず履修を推奨し、このうち2年次春学期に配当される「工業力学」「工業力学演習」は必修とします。「応用」「発展」に分類されている科目は全て選択科目であり、勉学への興味と将来希望する進路に合わせて履修する分野を組み合わせることを推奨します。

(c) 実験・実習

「デザイン基礎」「機械製作実習」「メカトロ実習(ロボット:基礎)」「メカトロ実習(エネルギー)」「メカトロ実習(ロボット:発展)」の5科目で構成され、このうち「デザイン基礎」「機械製作実習」「メカトロ実習(ロボット:基礎)」は必修科目です。総合演習(キャップストーンプロジェクト等)に必要な基礎技術を修得するとともに、安全ともものづくりに対する意識を身につけます。

1年次春学期で履修する「デザイン基礎」では下記の3つのテーマから最も興味がある1つのテーマを選択し、構想・設計・製作・確認という一連のプロセスを実践することで、専門科目で学修する多くの専門知識を利用した作業を体験します。

- テーマ1(機械系分野)：レゴマインドストームを活用したロボット製作
- テーマ2(電気系分野)：マイコンを活用したシステムの構築
- テーマ3(情報処理系分野)：Webを活用したシステムの構築

2年次秋学期で履修する「機械製作実習」では機械加工および3次元プリンタの基礎を修得し、3年生以降に配当される「メカトロ実習」ではロボットやエネルギーに関連する実験と課題解決型学習(PBL)を通して、実習内容に関連する専門科目で学修した知識を深め、技能を実践します。

(d) 総合演習

3年生は必修科目として「プレキャップストーンプロジェクトⅠ・Ⅱ」、4年生は就職・大学院進学の前道に於いて「キャップストーンプロジェクトⅠ・Ⅱ」もしくは「研究室プロジェクトⅠ・Ⅱ」を履修します。

キャップストーンとはピラミッドの頂上に置く石のことであり、“総仕上げ”の意味として使われています。専門科目で修得した知識を基礎に、その応用として企業が直面する課題の解決に学生4~5人のチーム

で取り組みます。教員だけでなく、課題を提示した企業の技術者・研究者もできるだけチームのミーティングに参加し、企業の視点から指導を行います。現場の課題に向き合うことで、実践的な課題分析力・課題解決力を修得するとともに、チームワークやコミュニケーション力を身につけます。

6. 科目ナンバリング

○1桁目が“M”である科目ナンバーは工学部の科目であることを示しています。大学共通科目であっても、工学部独自内容の科目については科目ナンバーの1桁目が“M”になります。（「上級英語Ⅰ・Ⅱ」を除く英語科目、日本語科目（留学生向け）、「スタートアップゼミA・B」、「キャリアデザイン」）

科目区分を示す2桁目の英字は下表の通りです。

2桁目英字	科目区分（大学共通科目）	2桁目英字	科目区分（学部専門科目）
E	英語科目（「上級英語Ⅰ・Ⅱ」を除く）	C	専門共通科目
J	日本語科目	S	専門科目
U	スタートアップ科目	X	実験・実習
R	キャリア教育科目（「キャリアデザイン」のみ）	G	総合演習

○専門共通科目および専門科目の科目ナンバーでは、5桁目の数字が学修レベル、6桁目の数字が講義・演習の種別を表します。また、実験・実習および総合演習の科目ナンバーでも、6桁目の数字は演習や実習を示す奇数のみを用います。

5桁目数字	学修レベル（専門共通科目・専門科目）	6桁目数字	講義／演習の種別（専門共通科目・専門科目）
0～2	基礎	偶数	講義科目
3～6	応用	奇数	演習科目（実験・実習、総合演習を含む）
7～8	発展		

<専門共通科目、専門科目ナンバリング>



機械電気システム工学科授業科目一覧

科目区分	科目ナンバー	授業科目の名称	単位数			1年次	2年次	3年次	4年次	
			必修	自動登録	選択					
大学共通科目	未来展望科目	CF3201	コミュニティの再生			2	○	○	○	○
		CF3202	生命の歩みと未来			2	○	○	○	○
		CF3203	グローバル化と多様性			2	○	○	○	○
		CF3205	クオリティ・オブ・ライフの探究			2	○	○	○	○
		CF2206	未来展望ゼミ			2	○	○	○	○
	公民教養科目	CC1201	日本国憲法			2	○	○	○	○
		CC1202	健康スポーツ理論			2	○	○	○	○
		CC1203	法学			2	○	○	○	○
		CC1204	生命倫理学			2	○	○	○	○
		CC1205	人権の歴史と現代			2	○	○	○	○
		CC1206	宗教学			2	○	○	○	○
		CC1207	哲学概論			2	○	○	○	○
		ZB1201	日本経済入門			2	○	○	○	○
		CC1209	経営学総論			2	○	○	○	○
		CC1210	生物学			2	○	○	○	○
	CC1211	化学			2	○	○	○	○	
	英語科目	ME1202	英語文法Ⅰ	2			○	○		
		ME2107	英語文法Ⅱ		1		○	○	○	○
		ME1203	工学英語Ⅰ	2			○	○		
		ME2208	工学英語Ⅱ		2		○	○	○	○
ME1204		アクティブ・リーディング	2			○	○			
ME1205		アクティブ・リスニング	2			○	○			
ME1201		英会話Ⅰ	2			○	○			
ME2206		英会話Ⅱ		2		○	○	○	○	
ME3109		英会話Ⅲ		1			○	○	○	
ME4112		英会話Ⅳ		1			○	○	○	
ME3110		アカデミックライティングⅠ		1			○	○	○	
ME4113		アカデミックライティングⅡ		1			○	○	○	
ME3111		プレゼンテーション		1			○	○	○	
ME4114		ディスカッション		1			○	○	○	
CE3111		上級英語Ⅰ			1		○	○	○	
CE3112	上級英語Ⅱ			1		○	○	○		
語学科目	日本語科目	MJ2101	〈留〉日本語文字・語彙 基礎Ⅰ	1			○	○	○	○
		MJ2102	〈留〉日本語聴解・会話 基礎Ⅰ	1			○	○	○	○
		MJ2103	〈留〉日本語読解 基礎Ⅰ	1			○	○	○	○
		MJ2104	〈留〉日本語作文 基礎Ⅰ	1			○	○	○	○
		MJ2105	〈留〉日本語文法 基礎Ⅰ	1			○	○	○	○
		MJ2106	〈留〉日本語文字・語彙 基礎Ⅱ	1			○	○	○	○
		MJ2107	〈留〉日本語聴解・会話 基礎Ⅱ	1			○	○	○	○
		MJ2108	〈留〉日本語読解 基礎Ⅱ	1			○	○	○	○
		MJ2109	〈留〉日本語作文 基礎Ⅱ	1			○	○	○	○
		MJ2110	〈留〉日本語文法 基礎Ⅱ	1			○	○	○	○
	MJ3111	〈留〉日本語文字・語彙 応用		1			○	○	○	○
	MJ3112	〈留〉日本語聴解・会話 応用		1			○	○	○	○
	MJ3113	〈留〉日本語読解 応用Ⅰ		1			○	○	○	○
	MJ3114	〈留〉日本語読解 応用Ⅱ		1			○	○	○	○
	MJ3115	〈留〉日本語作文 応用		1			○	○	○	○
	MJ4116	〈留〉日本語総合Ⅰ		1			○	○	○	○
	MJ4117	〈留〉ビジネス日本語Ⅰ		1			○	○	○	○
	MJ4118	〈留〉新聞読解演習		1			○	○	○	○
	MJ4119	〈留〉日本語総合Ⅱ		1			○	○	○	○
	MJ4120	〈留〉ビジネス日本語Ⅱ		1			○	○	○	○
	MJ4121	〈留〉論文読解演習		1			○	○	○	○

科目区分		科目ナンバー	授業科目の名称	単位数			1年次	2年次	3年次	4年次	
				必修	自動登録	選択					
大学 共通科目	語学科目	第二外国語	CL1101	ベーシック中国語Ⅰ			1		○	○	○
			CL1102	ベーシック中国語Ⅱ			1		○	○	○
			CL1103	ベーシック韓国語Ⅰ			1		○	○	○
			CL1104	ベーシック韓国語Ⅱ			1		○	○	○
			CL1105	ベーシックドイツ語Ⅰ			1		○	○	○
			CL1106	ベーシックドイツ語Ⅱ			1		○	○	○
			CL1107	ベーシックフランス語Ⅰ			1		○	○	○
			CL1108	ベーシックフランス語Ⅱ			1		○	○	○
	スタートアップ科目	MU1201	スタートアップゼミA	2				○	○	○	○
		MU2202	スタートアップゼミB	2				○	○	○	○
	キャリア教育科目	MR4201	キャリアデザイン			2			○	○	○
		CR2123	海外研修			1	○	○	○	○	○
		CR2124	インターンシップ			1	○	○	○	○	○
		CR2125	サービス・ラーニング			1	○	○	○	○	○
	スポーツ科目	CS1101	スポーツ・ライフスキルⅠ	1			○	○	○	○	○
		CS2102	スポーツ・ライフスキルⅡ	1			○	○	○	○	○
		CS3103	スポーツ・ライフスキルⅢ	1				○	○	○	○
		CS4104	スポーツ・ライフスキルⅣ	1				○	○	○	○
学部 専門科目	専門共通基礎科目	MC1202	機械電気システム工学概論	2			○	○	○	○	
		MC8270	知的財産			2					○
	理工工学科目	基礎	MC2404	物理学Ⅰ	4			○			
			MC2205	物理学Ⅰ演習	2			○			
			MC3606	物理学Ⅱ	6				○	○	○
			MC3207	物理学Ⅱ演習	2				○	○	○
			MC2408	微分積分と線形代数Ⅰ	4			○			
	工業数学科目	基礎	MC2209	微分積分と線形代数Ⅰ演習	2			○			
			MC3410	微分積分と線形代数Ⅱ	4				○	○	○
			MC3211	微分積分と線形代数Ⅱ演習	2				○	○	○
			MC4212	常微分方程式		2			○	○	○
			MC4113	常微分方程式演習		1			○	○	○
			MC5214	ベクトル解析		2				○	○
		応用	MC5115	ベクトル解析演習		1				○	○
			MC6230	フーリエ解析と偏微分方程式			2			○	○
			MC6131	フーリエ解析と偏微分方程式演習			1			○	○
			MC7232	複素解析と確率・統計			2				○
	MC7133	複素解析と確率・統計演習			1				○		
情報処理科目	基礎	MC1216	数値解析プログラミング	2			○	○	○	○	
		MC2218	情報リテラシー	2			○	○	○	○	
		MC3220	Pythonプログラミング	2				○	○	○	
		MC3121	Pythonプログラミング演習	1				○	○	○	
	応用	MC4234	C言語プログラミング			2		○	○	○	
		MC4135	C言語プログラミング演習			1		○	○	○	
		MC5236	C言語システムプログラミング			2			○	○	
		MC5137	C言語システムプログラミング演習			1			○	○	
		MC6238	デジタル信号処理			2			○	○	
MC6139	デジタル信号処理演習			1			○	○			

科目区分		科目ナンバ	授業科目の名称	単位数			1年次	2年次	3年次	4年次
				必修	自動登録	選択				
学部 専攻科	設計生産	基礎	MS5202	機械設計製図		2			○	○
			MS5103	機械設計製図演習		1			○	○
		応用	MS6230	設計生産工学			2		○	○
	ロボティクス	応用	MS5232	機構学・移動ロボット入門			2		○	○
		発展	MS6270	ロボットマニピュレータ入門			2		○	○
	計測	応用	MS6234	計測工学			2		○	○
		発展	MS7272	センサ工学			2			○
	制御	応用	MS5236	古典制御工学			2		○	○
		発展	MS6238	現代制御工学			2		○	○
	力学	基礎	MS3204	工業力学	2			○	○	○
			MS3105	工業力学演習	1			○	○	○
	材料	基礎	MS4206	材料力学		2		○	○	○
			MS4107	材料力学演習		1		○	○	○
	イオニクス	基礎	MS5208	物理化学		2			○	○
			MS5109	物理化学演習		1			○	○
		応用	MS6240	電気化学			2		○	○
		発展	MS7276	電池工学			2			○
	電磁気	応用	MS4242	電磁気学			2	○	○	○
			MS4143	電磁気学演習			1	○	○	○
	アクチュエータ	応用	MS4244	モータ工学基礎			2	○	○	○
		発展	MS5278	モータ制御			2		○	○
			MS7280	アクチュエータシステム			2			○
	エネルギー	応用	MS7246	送配電工学			2			○
			MS8248	発変電工学			2			○
	デバイス	応用	MS5250	半導体工学			2		○	○
			MS6252	パワーエレクトロニクス工学			2		○	○
	回路	応用	MS5254	電気回路			2		○	○
			MS6256	アナログ電子回路			2		○	○
			MS7258	論理回路			2			○
	通信	応用	MS7260	通信工学			2			○
MS8262			情報通信ネットワーク			2			○	
実験・実習		MX1201	デザイン基礎	2			○	○	○	○
		MX4303	機械製作実習	3				○	○	○
		MX5305	メカトロ実習（ロボット：基礎）	3					○	○
		MX6307	メカトロ実習（エネルギー）			3			○	○
		MX7309	メカトロ実習（ロボット：発展）			3				○
総合演習		MG5201	ブレックアップストーンプロジェクトⅠ	2				○		
		MG6403	ブレックアップストーンプロジェクトⅡ	4				○		
		MG7205	キャップストーンプロジェクトⅠ			2			○	
		MG8407	キャップストーンプロジェクトⅡ			4			○	
		MG7415	研究室プロジェクトⅠ			4			○	
		MG8417	研究室プロジェクトⅡ			4			○	

工学部機械電気システム工学科カリキュラムマップ(4月入学生)

【設置の趣旨・必要性】 → 複数の学問分野の真理を構成要素として新たなシステムや概念を構築する
 ○社会・産業の構造改革が急速に進行し、ロボット・ドローン・電気自動車などの新しい市場とそれを充足するための新しい産業分野の拡大が進んでいる。
 ○これらの市場と産業の発展の基礎となるAI・ビッグデータ解析・IoT・イオニクスなどの新しい学問分野が次々と誕生している。
 ○社会・産業の構造改革と必要とされる学問の高等教育に迅速に対応し、21世紀が必要とする科学技術分野において日本が世界をリードするために、従来の学問体系を尊重・重視した高等教育から、従来の学問分野を再編統合整理し新しい専門知識を修得できる新しい工学系教育に基づいて産業界が求める工学人材を育成することが求められている。

【学部・学科の特色】 → 新しい産業応用分野に対応する広範のメカトロニクス分野を教育・研究の対象とする
 ○従来のメカトロニクス分野に含まれる機械工学・電気工学・電子工学を中心に、化学工学・材料工学・情報工学も包含する。
 ○工学部としては日本で初めて3回生にプレキャップストーンプログラム、4回生にキャップストーンプログラムを導入し、課題提示のみでなく、進捗発表にも企業の技術者・研究者が同席して学生指導を補助する産学協働人材育成体制を整備する。
 ○日本人学生と留学生を区別せずに英語を基本とした混合クラスで教育を行い、日本人学生にはそのための英語力を涵養する。

【育成する人材像】
 → 未来につながる課題を自ら設定し、それを解決できる先端人材を輩出
 ○専門的知識・学術ならびに高い教養と、世界で通用する先進性・多様性・倫理観を涵養し、複雑で複合的な問題に挑戦できる人材
 ○複数分野に跨る分野横断的技術作業に従事できる人材
 ○英語でも日本語でも専門用語を使いながら仕事ができる人材

アドミッション・ポリシー
 本学部の教育目的に即した人材を育成するため、本学部の教育目的を理解し、意欲と主体性をもって勉学に励むことができ、高等学校の教育課程で修得する物理と数学を中心とした基礎的な学力とそれを活用する論理的思考力、また基礎的な英語力と英語コミュニケーション能力を備える人を求めます。

カリキュラム・ポリシー
 ディプロマ・ポリシーに掲げた能力を有する人材を育成するために、以下の方針に基づいた教育プログラムを実施する。

未来展望科目
 コミュニティの再生
 生命の歩みと未来
 グローバルイノベーションと多様性
 クオリティ・オブ・ライフの探究
 未来展望ゼミ

公民教養科目
 日本国憲法
 健康スポーツ理論
 法學・生命倫理学
 人の歴史と現代
 宗教学・哲学概論
 日本経済入門
 経営学概論
 生物学
 化学

		教育課程							
		4月入学生 セメスター							
		1	2	3	4	5	6	7	8
大学 共通 科目	未来展望科目	未来展望科目	未来展望科目	未来展望科目	未来展望科目	未来展望科目	未来展望科目	未来展望科目	未来展望科目
	公民教養科目	公民教養科目	公民教養科目	公民教養科目	公民教養科目	公民教養科目	公民教養科目	公民教養科目	公民教養科目
学 部 専 門 科 目	英語科目	英語I 英語文法I 工学英語I アカデミックライティングI アカデミックリスニング	英語II 英語文法II 工学英語II	英語III アカデミックライティングII プレゼンテーション	英語IV アカデミックライティングII ディスカッション	工学とは異なる領域の知識・考え方を学ぶことで、工学的な知識や思考方法を相対化し、社会への関心を高める			
	スタートアップ科目	スタートアップゼミA	スタートアップゼミB	グループワークによって問題発見・解決プロセスを体験することで、知識修得や研究遂行に必要な理解力・探求力・表現力を養成					
専 門 共 通 科 目	キャリア教育科目	キャリアデザイン	キャリアデザイン						
	スポーツ教育科目	スポーツ・ライフスキルI	スポーツ・ライフスキルII	スポーツ・ライフスキルIII	スポーツ・ライフスキルIV				
学 部 専 門 科 目	専門共通基礎科目	機械電気システム工学概論	・学科カリキュラムの全体概要を理解 ・科目の相互関係と実社会とのつながり、技術者としての社会的な使命や工学倫理を理解 ・学部卒業後の進路(就職・進学)について理解						
	物理工学科目	物理学I 物理学I演習	物理学II 物理学II演習	専門科目を履修するための基礎として2・3セメスターに配置し集中的に修学					
専 門 科 目	工業数学科目	MATLAB & Simulinkの基本的修得と活用	微分積分と線形代数I 微分積分と線形代数II演習	微分積分と線形代数II 微分積分と線形代数II演習	常微分方程式 常微分方程式演習	ベクトル解析 ベクトル解析演習	フーリエ解析と偏微分方程式 フーリエ解析と偏微分方程式演習	複素解析と確率・統計 複素解析と確率・統計演習	
	情報処理科目	数値解析プログラミング	情報リテラシー	Pythonプログラミング Pythonプログラミング演習	C言語プログラミング C言語プログラミング演習	C言語システムプログラミング C言語システムプログラミング演習	デジタル信号処理 デジタル信号処理演習		
専 門 科 目	設計生産					機械設計製図 機械設計製図演習	設計生産工学		
	ロボティクス					機構学・移動ロボット入門	ロボット・電子回路入門		
専 門 科 目	計測						計測工学	センサ工学	
	制御					古典制御工学	現代制御工学	デジタル制御工学	
専 門 科 目	力学		工業力学 工業力学演習						
	材料				材料力学 材料力学演習				
専 門 科 目	イオニクス					物理化学 物理化学演習	電気化学	電池工学	
	電磁気				電磁気学 電磁気学演習				
専 門 科 目	アクチュエータ				モータ工学基礎	モータ制御		アクチュエータシステム	
	エネルギー							送配電工学	発電工学
専 門 科 目	デバイス					半導体工学	パワーエレクトロニクス工学		
	回路					電気回路	アナログ電子回路	論理回路	
専 門 科 目	通信							通信工学	情報通信ネットワーク
	実験・実習	デザイン基礎			機械製作実習	メカトロ実習 (ロボット・基礎)	メカトロ実習 (エネルギー)	メカトロ実習	総合演習に必要な基礎技術を修得・安全とのつくりに対する意識を涵養
専 門 科 目	総合演習				プレキャップストーン プロジェクトI	プレキャップストーン プロジェクトII	キャップストーン プロジェクトI 研究家プロジェクトI	キャップストーン プロジェクトII 研究家プロジェクトII	DP5: 自ら設定した主題に対して、文献調査、実験等で収集した情報に基づき、客観的に分析しながら論理的、批判的に考察することができる。

AP1: 工学を学ぶために必要な基礎的な知識・技能を有する。

AP2: 工学について考え、判断する能力があり、自分の考えを表現できる。

AP3: 工学に対する強い興味・関心があり、創造的思考力を育むため、主体的に学ぶ強い意欲を持つ。
 複雑で複合的な問題に挑戦するために、多様な人々と協働して取り組める。
 グローバル社会で活躍できる教養(専門性・先進性・多様性・道徳性)を身につけ、英語を中心とした語学力の向上を目指す意欲を持つ。

CP1: 教育課程として、大学共通科目および学部専門科目を配置する。

CP4: 4年間の教育課程では、大学共通科目や学部専門科目を理論的に学修するだけでなく、実験・演習、相合演習も運動させながら実践的かつ能動的に学修する。

CP8: 1年次から3年次には、グローバルな技術者としての基礎的な日本語と英語の語学力の修得を目指して、一貫したカリキュラムで学修する。

CP6: 1年次には、スタートアップ科目で、基礎的な課題発見力・解決力およびコミュニケーション力を育む学修を行う。

CP7: 1年次および2年次には、基礎的な数学、物理、情報処理の知識修得を目指した学修を行い、また、身体活動を通じてコミュニケーション・リーダーシップ・協調性を育む学修を行う。

CP2: 機械工学と電気工学に跨る学際領域分野の専門共通基礎科目と専門科目(専門知識と専門技能)を修得させ、多角的に真理を探究する力を育成する。

CP5: 基礎科目、専門基礎科目および専門科目としての実験・実習・総合演習を通じて、コミュニケーション力、協働力、課題発見力やリーダーシップを育む学修を行います。

CP3: 専門科目(専門知識と専門技能)を修得後、総合演習科目(キャップストーン、卒業研究)を通じて、専門的知見に基づく主体的な行動力および問題解決力を育成します。

CP9: 総合演習科目で社会の一員として、社会の課題の解決を図る力を学修すると共に、コミュニケーション力、協働力、課題発見力やリーダーシップを育成する。

必修科目
 選択科目
 黒枠科目
 白背景科目
 薄黄背景科目
 黄背景科目
 橙背景科目
 緑背景科目
 紫背景科目

大学共通科目
 専門共通基礎・専門基礎科目
 専門共通応用・専門応用科目
 専門共通発展・専門発展科目
 総合演習科目
 実験・実習・総合演習科目

ディプロマ・ポリシー
 4年以上在学し、所定の単位を取得し、下記の能力を身に付けたと判断できる学生に対し卒業を認定し、学士(工学)の学位を授与する。

DP6: 学びを通じ、包容するグローバル社会の諸問題に継続的に関心を示し、その問題の解決のために粘り強く主体的に行動できる。

DP3: 専門知識や意見について、日本語と英語を用いて他者と意思疎通を行うことができる。

DP7: 多様な他者と強調しながら、自律的な社会人として行動できる。

DP2: 必要な情報を適切な方法を用いて収集し、活用できる。

DP1: 機械分野と電気分野に跨る学際的な工学分野の知識体系を他領域の知識と関連づけながら修得し、包容するグローバル社会の諸問題を解決するために活用できる。

DP4: 修得した知識、技術ならびに経験を活かして、複眼的思考で自らの考えを論理的に組み立て、表現することができる。

DP5: 自ら設定した主題に対して、文献調査、実験等で収集した情報に基づき、客観的に分析しながら論理的、批判的に考察することができる。

第2章 大学共通

インターンシップ（企業実習）プログラム

目的

「世界で活躍できる人材になってほしい」。学生が卒業後も豊かな人生を送れるように、インターンシップ推進課では、キャリアマネジメント課と共にキャリア教育を行っています。インターンシップを通じて働く意味はもちろんのこと、社会から求められる人材についての“学び”や“気づき”を得て、進路や学生生活の充実を図ることを目的としています。

全学共通型インターンシップ（本学主催）

全学生対象の全学共通型インターンシップ（企業実習）は、4月に説明会を行い、学内選考を経て実習先を決定します。その後、夏季休暇を利用し、2週間～1カ月程度の実習を経験します。また、実習経験をより良いものとするために、事前・事後学習を行います。事前学習では、業界・企業研究を通じて実習先への理解を深めます。実習後の事後学習では、様々な角度で自身を振り返り、成果報告会にて学びや気づき、そして今後の目標などを発表します。毎年、海外・国内ともに受入先、参加人数、期間を拡大しており、今後もより多くのプログラムを提供していきます。

全学共通型インターンシップは海外コースと国内コースの2種類のプログラムがあり、応募段階でどちらのコースを希望するか選択していただけます。

「海外コース」・・・海外へ渡航し、現地企業および団体にて実習を行う。

実習例）某都銀米国支店での金融実務、某メーカー欧州統括拠点での管理実務、米国の菓子製造会社での実務等。

「国内コース」・・・国内の企業および団体にて実習を行う。

実習例）メーカー、金融、IT、食品、スポーツなど、多様な業界・職種の受入先が100社以上あり。

※2023年度実績：海外コース、国内コース合わせて200名以上が参加。

<スケジュール>

4月 説明会・募集・出願

5月 学内選考

6～7月 事前授業

8～9月 実習

10月 事後授業および成果報告会

<履修手続き>

学内選考通過後に自動登録されます。

<単位認定について>

プログラムを修了した者については、評価基準に応じて採点の上、単位認定を行います。認定された単位は、各学部のカリキュラムで想定されている範囲内で要卒単位に含まれます。

インターンシップ推進課

京都太秦キャンパス 西館 1F インターンシップ推進課

《窓口取扱時間》 月～金 8:30～17:00（大学が定める休業日を除く。長期休業期間中は時間変更あり。）

TEL：075-406-9260 E-Mail：intern@kuas.ac.jp

大学コンソーシアム京都 単位互換制度

大学コンソーシアム京都の単位互換制度とは、他の加盟大学・短期大学において修得した授業科目の単位を自大学の単位として修得したものとみなされる制度です。現在では約50校の加盟校と協定を締結し、多くの学生が多種多様な学問分野の講義を履修しています。

1. 出願手続き

(1) ガイダンス

オリエンテーション期間中に、本学「先端ナビ」に出願方法についての案内を掲示します。受講希望者は、期日までに、所定の出願手続きを行ってください。

(2) 出願方法

大学コンソーシアム京都のポータルシステム「単位互換・京カレッジポータルサイト」上でのオンライン出願となります。

まず、アカウントを作成してください。次に、受講希望科目の出願登録を行って、所定期日までに教務センターに申請報告をしてください。

単位互換科目の登録・履修制限は、当該年度で3科目以内です。本学の履修登録制限単位数には含まれません。

(3) 各科目の詳細

大学コンソーシアム京都のポータルシステム「単位互換・京カレッジポータルサイト」で検索・閲覧してください。

2. 履修許可および履修手続き

大学コンソーシアム京都単位互換科目は、全科目定員制です。科目開設大学で書類選考等を実施し、履修可否は、出願時に登録したメールアドレス宛に通知されます。

履修許可を受けた場合、科目開設大学から指示された所定の手続きを行ってください。

3. 科目開設大学からの諸連絡

授業に関するお知らせ・休講・補講・試験等については、出願時に登録したメールアドレス宛に通知されます。また、大学コンソーシアム京都のWEBサイトにて、各自で確認してください。

4. 単位認定について（健康医療学部看護学科・言語聴覚学科除く）

履修登録が正しくできており、一定の要件を充たした場合は、単位が認定されます。受講した科目名にかかわらず、本学の成績表には「単位互換(コンソーシアム)」という科目名で表示されます。評価欄には単位認定を意味する「N」と表示され、点数は表示されません。認定された単位は、各学部のカリキュラムで規定されている範囲内で要卒単位に含まれます。

卒業年次の場合、科目開設大学からの成績通知が、本学の卒業判定に間に合わない場合があります。単位互換科目の単位認定の可否が、卒業判定に影響するような受講は避けてください。

5. 「大学コンソーシアム京都 インターンシップ・プログラム」について

例年4月頃に、一般の単位互換科目履修登録とは別に登録申請を受け付けます（年1回）。受講が許可され、一定の要件を充たした場合「インターンシップ実習」という科目名で単位認定されます。認定された単位は、各学部のカリキュラムで規定されている範囲内で要卒単位に含まれます。詳細は、インターンシップ推進課に照会してください。

放送大学 単位互換制度

放送大学はBSテレビ・ラジオ、インターネット等を通して、大学教育の機会を幅広く提供している正規の通信制大学です。本学は放送大学と単位互換協定を締結しており、本制度を適用している学部の学生が、放送大学の科目を「特別聴講学生」として履修し単位を修得した場合、その単位が本学の卒業要件単位として認定されます。（各学部カリキュラムの規定があります。）

1. 出願手続き

(1) ガイダンス

履修・出願方法については本学「先端なび」で掲示します。

放送大学の第1学期(4月～9月)の受講については前年度の1月頃、第2学期(10月～3月)の受講については7月頃に案内します。

(2) 放送大学授業期間と試験期間

第1学期 授業期間：4月～9月 試験期間：7月中旬～下旬頃

第2学期 授業期間：10月～3月 試験期間：1月中旬～下旬頃

(3) 出願方法

各キャンパスの教務センターで、「特別聴講学生出願書類」「授業科目案内」を受け取り、所定の書類を本学の教務センターに提出してください。放送大学ホームページからのインターネット出願、また放送大学への直接の出願はできません。必ず本学の教務センターを通じて出願してください。

出願期間は、第1学期(4月～9月)は前年度の1月下旬頃、第2学期(10月～3月)は7月下旬頃です。

(4) 履修可能科目と単位数

本学「先端なび」で掲示する「放送大学開設授業科目一覧」、放送大学のWEBサイトで検索・閲覧してください。

履修可能単位数は各セメスター(学期)2単位、在学期間中12単位までです。放送大学で履修する科目は履修登録制限には含まれません。

2. 履修許可

放送大学で履修が許可されると出願学生の住所に合格通知書と払込取扱票が放送大学より送付されます。期日までに学費を納付すると、学生の登録住所に印刷教材・入学許可書等が届きます。

3. 単位認定について(バイオ環境学部・健康医療学部・工学部は除く)

放送大学で修得した単位は受講科目名にかかわらず、本学の成績表には「単位互換(放送大学)」という科目名で表示されます。評価欄には単位認定を意味する「N」と表示され、点数は表示されません。認定された単位は、各学部のカリキュラムで規定されている範囲内で、要卒単位に算定されます。

卒業予定セメスター(学期)での受講はできません。また進級判定を行うセメスターで受講し、放送大学からの成績通知が本学の進級判定に間に合わない場合は、成績の可否に関係なく進級要件としての修得単位数には算定されません。単位互換科目の単位認定の可否が、進級判定に影響するような受講は避けてください。

国内留学（札幌学院大学・沖縄国際大学）

【趣旨及び留学先】

本学と札幌学院大学及び沖縄国際大学との間で、教育研究の発展に資するため、大学間で単位互換に関する協定（包括協定）を結んでいます。これによりお互いに学生を交換し、交流及び学修ができるようになっていきます。

【資格及び決定手順】

資格：原則として、先方で留学する学年が2年次以上で、留学先での目的が明確かつ成績優秀な者。

決定手順：本学において希望する学生を選考のうえ、学長が推薦します。

相手先で受け入れについて審議された後決定します。（2月下旬予定）

【留学期間】

1年（春学期から）または半年（春学期または秋学期）とします。

札幌学院大学は、完全なセメスター制ではありませんので、半年での科目履修は限定されます。

【学修・単位】

履修指導：留学先の大学のカリキュラムに基づいて、履修指導を受けます。

留学先で修得した単位：学則に基づき、**60単位まで要卒単位として認定されます。**

【経費】

留学中の学費：本学に所定の学費を納めます。留学先に納める必要はありません。

その他の実習費等は、自己負担となります。

【出願手続】

希望する留学先を決め、願書及び履歴書等を本学教務センターへ提出します。（11月下旬頃）

詳細は「先端なび」からお知らせします。

提出必要書類等

- | | |
|-------------|------------------------|
| ① 願書 | （受入大学の様式。教務センターで配布） |
| ② 履歴書・自己紹介書 | （受入大学の様式。教務センターで配布） |
| ③ 健康診断証明書 | （本学保健室に申し込む：手数料 340 円） |
| ④ 写真 | （学生証用 4×333 cm） |

【学籍】

国内留学期間：「留学」という学籍になり、在学期間に含まれます。

留学により卒業の時期が延びることはありません。

手続：留学が決定した後、留学願を本学教務センターに提出します。

留学が終了した後、留学終了届を本学教務センターに提出します。

【留学先での身分及び生活等】

札幌学院大学では特別科目等履修生、沖縄国際大学では特別聴講学生の身分になります。

留学先では、学生生活に必要な施設及び制度を利用することができます。

留学期間中の滞在先が決まっていない場合は、留学先の大学と相談しながら下宿先を探します。

【その他】

学則（本学および留学先の大学）に違反するとき、又は修学状況が悪いときは、資格を取り消すことがあります。

海外留学・海外研修 相談窓口 国際センター

本学ではより多くの学生の皆さんに海外経験の機会を提供することを目指し、さまざまな海外留学・海外研修プログラムを用意しています。海外提携校との交換留学プログラム、海外での短期研修など多種多様です。また、事前学習などのプログラムも設け、海外での学習の準備が整えられるようにしています。

海外留学・海外研修を実りあるものにするためには、第一に強い意欲と目的意識が必要となりますが、情報収集や事前準備もしっかりと行う必要があります。各プログラムの詳細は国際センターで確認してください。

1. 交換留学プログラム

【交換留学について】

本学では、海外の大学と協定を結び、交換留学プログラムを実施しています。交換留学では、約半年間あるいは約1年間、海外の大学に在籍し、学生として留学先大学の学生と同じ授業を受けます。交換留学期間中の本学での学籍は「留学」となり、休学ではなく在学期間に含まれます。

【応募時期】

春と秋の年2回あり、詳細は「先端なび」でお知らせします。

【交換留学の出願資格】

- 留学出発時点で1年以上本学に在学していること。
- 出願時の通算GPAが2.0以上であること。
- 出願時において、前セメスターまでの必修科目を修得していること。
- 出願時において、1セメスターあたり平均20単位以上修得していること。（*1）
- 派遣先大学の定める基準を満たしていること。

*1：認定科目及び春学期に成績の出ない科目は、単位を修得したものとする。

【交換留学先で修得した単位の認定】

1セメスターで24単位、2セメスターで48単位を限度として単位認定されます。他大学等で修得した単位と合計して60単位を限度として卒業要件単位に含まれます。

（注）ただし、交換留学先で修得した単位が必ずしも本学の単位として認定されるとは限りません。

【交換留学先一例】交換留学先は追加・変更となる場合があります。

国・地域名	交換留学協定締結校名
アメリカ合衆国	ノースセントラル大学
台湾	國立高雄餐旅大学
タイ王国	カセサート大学
	ランシット大学
インドネシア共和国	IPB農業大学

2. 海外研修プログラム

各海外研修の詳細は、国際センターに問い合わせてください。

プログラム具体的な内容については、先端なびの掲示等でお知らせします。過去の研修内容は、本学の公式ウェブサイトにて公開しています。

◀ 海外研修の単位修得について ▶

海外研修は、成績評価の対象となります。

科目名称	単位数	成績評価方法	対象
海外研修ⅠA	1単位	外国の大学等で語学研修等を1週間程度行い、かつ指定されたレポート(2000字程度)を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。	①本学または本学と提携の大学が行う海外研修 ②個人で参加する海外研修(※)
海外研修ⅠB	1単位	海外研修ⅠAを履修した者が外国の大学等で語学研修等を1週間程度行い、かつ指定されたレポート(2000字程度)を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。	
海外研修ⅡA	2単位	外国の大学等で語学研修等を2週間程度行い、かつ指定されたレポート(2000字程度)を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。	
海外研修ⅡB	2単位	海外研修ⅡAを履修した者が外国の大学等で語学研修等を2週間程度行い、かつ指定されたレポート(2000字程度)を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。	
海外研修ⅢA	4単位	外国の大学等で語学研修等を1か月間程度行い、かつ指定されたレポート(4000字程度)を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。	
海外研修ⅢB	4単位	海外研修ⅢAを履修した者が外国の大学等で語学研修等を1か月間程度行い、かつ指定されたレポート(4000字程度)を提出して、審査に合格した場合に単位を認定する。	

※個人で参加する海外研修については、事前に教務センターに申請を行い、許可を得られた場合において、所定の要件を充たせば成績評価の対象となります。

*工学部学生については、上記いずれの科目も「海外研修 1単位」として認定されます。

- 海外の大学等の同一機関で同一レベルの語学研修等を重複して行った場合、単位認定の対象になるのは一方のみです。
- 履修登録制限を超えて修得出来ます。

(1) 単位認定の申請方法

- 「海外研修」の単位認定を希望する場合は、事前指導を受けてから研修先を決定してください。
- 海外研修を修了した者は、修了証明書の写し及び指定されたレポートを担当者に提出してください。
- 履修登録及び単位認定は帰国後当該年度に行います。ただし、派遣先大学からの成績発表時期により、履修登録及び単位認定が当該年度中に間に合わない場合、翌年度に行います。
- 前各項にかかわらず、本学が行う「海外研修」に関する指導は別途行います。

(2) 海外研修期間中の学籍

「留学」にはなりません。

キャリア・就職支援体制

本学では入学から卒業までの4年間を通してのキャリア支援を行っています。未知なる可能性を秘めているみなさんが、自身の目標や夢を達成していくために早い時期から日本が直面する将来の変化を知り、その上で「なりたい自分」や「やりたい仕事」について考えを巡らし、行動して欲しいと願っています。

	1 年次	2 年次	3 年次	4 年次
キャリア教育（正課）		【①キャリア教育】 秋学期：キャリアデザイン		
	【②インターンシップ（企業実習）プログラム】			
		将来について考える 【①キャリア教育】を通して早い時期から日本が直面する将来変化を知り、人生設計の中で働くことの意味を考えます。		
	仕事を知る・体験する 【②インターンシップ（企業実習プログラム）】では実社会で実際に仕事を体験し、仕事観・職業観を培うとともに実社会で働く上で必要な知識やスキルに気づき、大学に戻ってから学びを深めて身に付けていきます。1年次から参加可です。プログラム以外の企業が実施するインターンシップ情報は、学内求人システム「Job KUAS」より検索することができます。			
就職支援（課外）	資格取得を目指す・スキル能力を向上する 各種検定試験合格のための【⑧資格取得支援講座】を多数開講。皆さんの将来に繋がる「キャリアづくり」をサポートしています。公務員（警察消防含む）を目指す方対象の【⑨公務員対策】もあります。			
			就職活動の対策をする 3年次から本格的に始まる就職活動に向けて全面的にバックアップしています。履歴書作成、筆記試験、面接などの対策講座だけでなく、みなさん一人ひとりの就職相談の場として個人面談も実施しています。蓄積された企業に関する豊富な情報も提供しているので企業選びにも是非活用してください。【③個人面談】【⑤就職支援行事】【⑥就職関連情報の提供】【⑦就職筆記試験対策講座】 2023年度は約300社の企業の人事ご担当者をお招きして【④学内合同企業研究会】を実施。各企業による事業内容だけでなく仕事内容についても話を聞く機会にもなり、目前に迫る職業選択に役立ちます。セミナーをきっかけに内定につながるケースもあります。	

- ① キャリア教育
2年次秋学期に卒業後の進路として自分の人生設計の中で働くことの意味を考えます。3・4年次のキャップストーンプロジェクトに向けて、基本的な知識とスキルを身に付けるだけでなく、京都先端科学大学の学生としての行動規範を身に付けることで自分自身のスキルアップを目指しましょう。
- ② インターンシップ（企業実習）プログラム
本書「第2章 大学共通 インターンシップ（企業実習）プログラム」をご参照下さい。
- ③ 個人面談（対面、オンラインでも実施しています）
就職活動や卒業後の進路に少しでも不安があればまず個人面談を利用しましょう。進路相談だけでなく、自己分析や自己PR、学生時代に取り組んだことを明確にして言語化することで、選考に必要な履歴書の完成も目指します。企業選択においては様々な業界・職種を知りながら、自分自身の希望や適性に照らして志望企業を決めていきます。また志望に応じた求人情報も案内しています。「Job KUAS」から予約をして、是非面談を活用してください。
- ④ 学内合同業界研究セミナー（主として3年次対象）
2023年度は約300社の企業に参加頂き、学内合同業界研究セミナーを実施しました。卒業生が在籍している企業はじめ、本学の学生を採用したいと考える企業が一堂に会し、業界や仕事の内容を紹介されました。興味がないと思っていた企業でも話を聞くことで視野が広がる良い機会です。就職活動をする人は必ず参加してください。
- ⑤ 就職支援行事（主として3・4年次対象）
就職活動をスムーズにするため「①自分を知る、②業界、企業を知る、③選考に向けて準備する」のセミナー等を随時開催しています。（就職活動準備、自己分析、自己PR、履歴書、エントリーシート、志望動機、面接、グループディスカッション）
- ⑥ 就職関連情報の提供
学内求人システム「Job KUAS」で大学求人公開しています。このほか、学外での企業説明会、各種セミナーなどは「先端なび>就職ポータル」で紹介しています。就職活動に重要な情報のみが掲載されますので「Job KUAS」と「先端なび>就職ポータル」は毎日確認しましょう。
- ⑦ 就職筆記試験対策講座
選考時に実施される就職筆記試験（SPIやCAB/GAB）の勉強は欠かせません。年間を通して対策講座を実施していますので自分の実力を知り、知識習得に励みましょう。
- ⑧ 資格取得支援講座
マイクロソフトのMOSや秘書検定などの基本的な資格から、簿記会計や販売士、宅建、ファイナンシャルプランニングなど専門的な資格まで、各種講座をラインナップしています。
- ⑨ 公務員対策
外部機関の講座を大学価格で提供しています。自身に合った学習方法を選択し試験対策することができます。

キャリアマネジメント課

みなさんの就職活動や資格取得の支援をしているのが「キャリアマネジメント課」です。

《京都太秦キャンパス(西館1階)窓口取扱時間》（土日祝日、その他大学が定める休業日を除きます。）

月～金	8:30～17:00
-----	------------

《京都亀岡キャンパス(楠風館1階)窓口取扱時間》（土日祝日、その他大学が定める休業日を除きます。）

月～金	8:30～17:00
-----	------------

いずれのキャンパスも、夏期冬期等の休業期間中は、上記窓口取扱時間が変更になる場合があります。

